

流域治水プロジェクトの策定・公表について

令和4年11月10日
京都府建設交通部



流域治水プロジェクトとは

「流域治水」の考えに基づき、国、府、市町村、民間企業、住民等の流域内のあらゆる関係者が、流域全体で緊急的に実施すべき治水対策の全体像。

①位置図

流域内で実施中の取組について、流域図にプロットしたもの

②ロードマップ

今後30年の流域内の治水対策の進捗状況について表したもの

③参考資料

各関係者の取組を一枚にまとめたもの。「氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策」、「被害対象を減少させるための対策」、「被害の軽減・早期復旧・復興のための対策」に分類される。



対象河川について

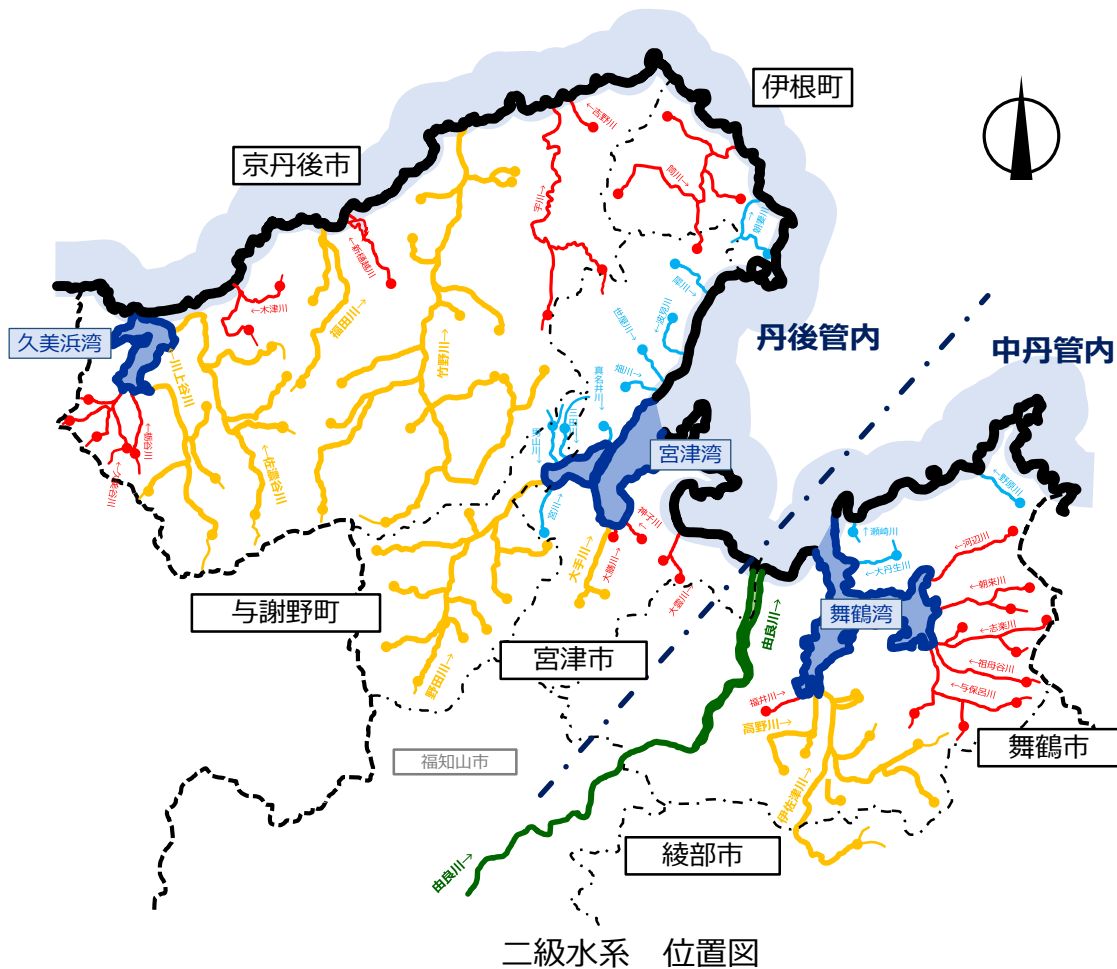
今年度策定対象の水系は以下の**10水系**です。なお、昨年度策定の**5水系**についても今回の策定に合わせ、フォローアップを行います。

【策定対象河川】

1. 大雲川
2. 神子川・大膳川
3. 筒川
4. 吉野川・宇川
5. 新樋越川
6. 木津川
7. 栃谷川・久美谷川

【フォローアップ対象河川】

1. 大手川
2. 野田川
3. 竹野川
4. 佐濃谷川
5. 川上谷川



おお くも

大雲川水系

流域治水プロジェクト(案)



～長狭な氾濫平野で流域治水を推進～

○気候変動による水災害の激甚化・頻発化に対応するため、大雲川水系においても、事前防災対策を進める必要があり、以下の取り組みを実施していくことで、流域における浸水被害の軽減を図る。

対策内容

■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河川等整備
- ・流域の雨水貯留機能の向上・保全

■被害対象を減少させるための対策

※対策が実行され次第、掲載します

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・水害リスク情報空白地帯の解消
- ・住民の水害リスクに対する理解促進の取組
- ・土砂災害警戒区域等の指定
- ・土地等の購入に当たっての水害リスク情報の提供
- ・避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実
- ・確実な避難行動の実施
- ・排水ポンプ車出動要請の連絡体制の整備
- ・水防工法等の訓練や土のう等の備蓄資材確保など、水防活動の支援
- ・地図混乱地域の解消

※災害からの安全な京都づくり条例に基づき、府、市等が一体となって防災対策を推進



図-1 大雲川洪水、津波ハザードマップ(提供：宮津市)

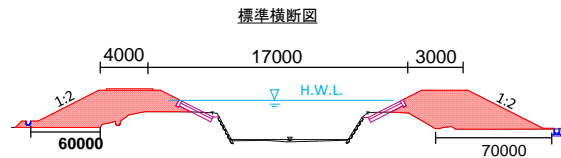
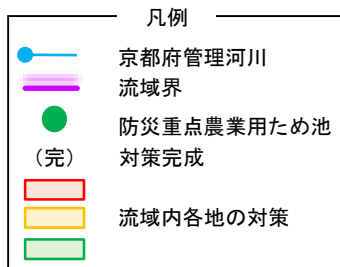


図-2 堤防整備(上：イメージ図、下：標準断面図)



図-3 水源林造成事業による森林整備実施イメージ





















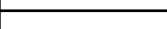



※本図は全対策の内、代表的な対策を記載している。
※具体的な対策内容については今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

～長狭な氾濫平野で流域治水を推進～

●大雲川水系では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、府、市が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短期】 河川整備により、堤防の嵩上げを行うとともに、流域の雨水貯留機能の向上・保全を実施する

【中長期】 河川整備により、さらなる流下能力の向上を図るとともに、「水災害リスク情報空白地帯の解消」や「住民の水害リスクに対する理解促進の取組」等のソフト対策を実施する

区分	主な対策内容	実施主体	工程 ( 対策実施中  対策完成)	
			短期 (令和4年度～令和8年度)	中長期 (令和9年度～令和33年度)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河川等整備	京都府		
	流域の雨水貯留機能の向上・保全	宮津市		
被害対象を減少させるための対策	-	-		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水災害リスク情報空白地帯の解消	宮津市、京都府		
	住民の水害リスクに対する理解促進の取組	宮津市		
	土砂災害警戒区域等の指定	京都府		
	土地等の購入にあたっての水災害リスク情報の提供	宮津市		
	避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実	宮津市		
	確実な避難行動の実施	宮津市		
	水防工法等の訓練や土のう等備蓄資材確保など、水防活動の支援	宮津市		
	地図混乱地域の解消	宮津市		

気候変動を踏まえた更なる対策を推進

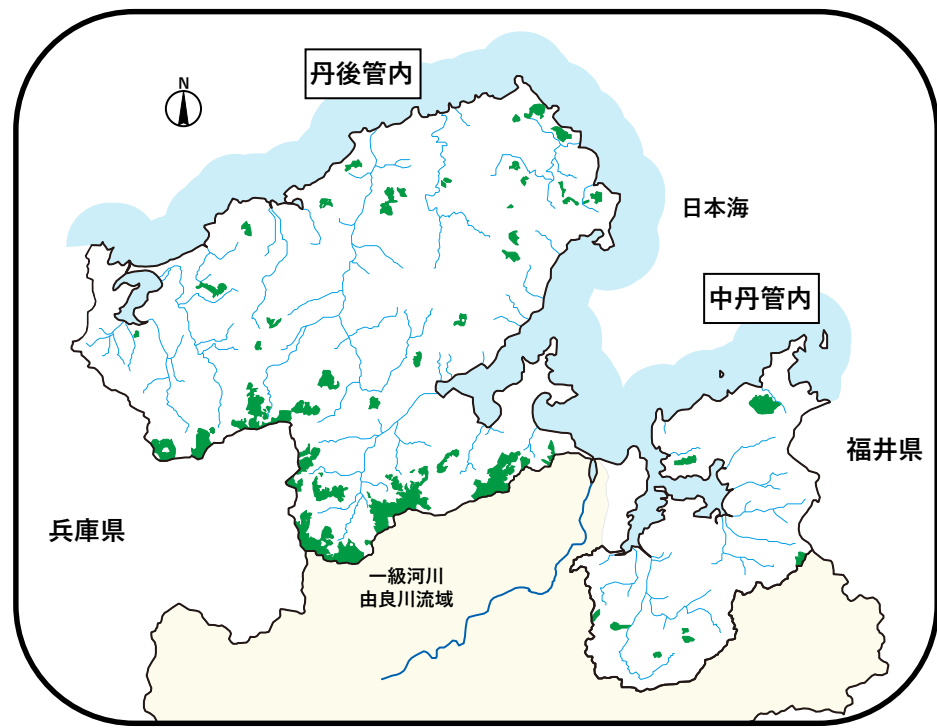
※スケジュールは今後の事業進捗の状況によって変更となる場合がある。

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策事例

<水源林造成事業による森林の整備・保全>

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター 近畿北陸整備局

- 水源林造成事業は、奥地水源地域の民有保安林のうち、所有者の自助努力等によっては適正な整備が見込めない箇所において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の有する公益的機能の高度発揮を図る事業です。
- 水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進します。
- 丹後管内流域における水源林造成事業地は、約109箇所（森林面積約4,505ha）であり、流域治水に資する除間伐等の森林整備を計画的に実施していきます。

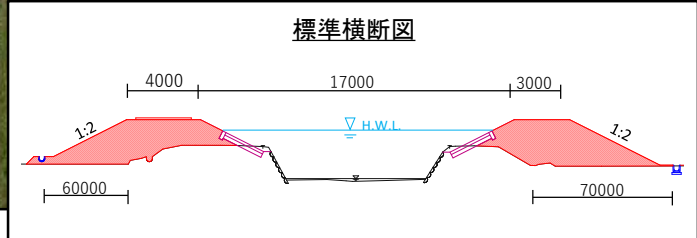
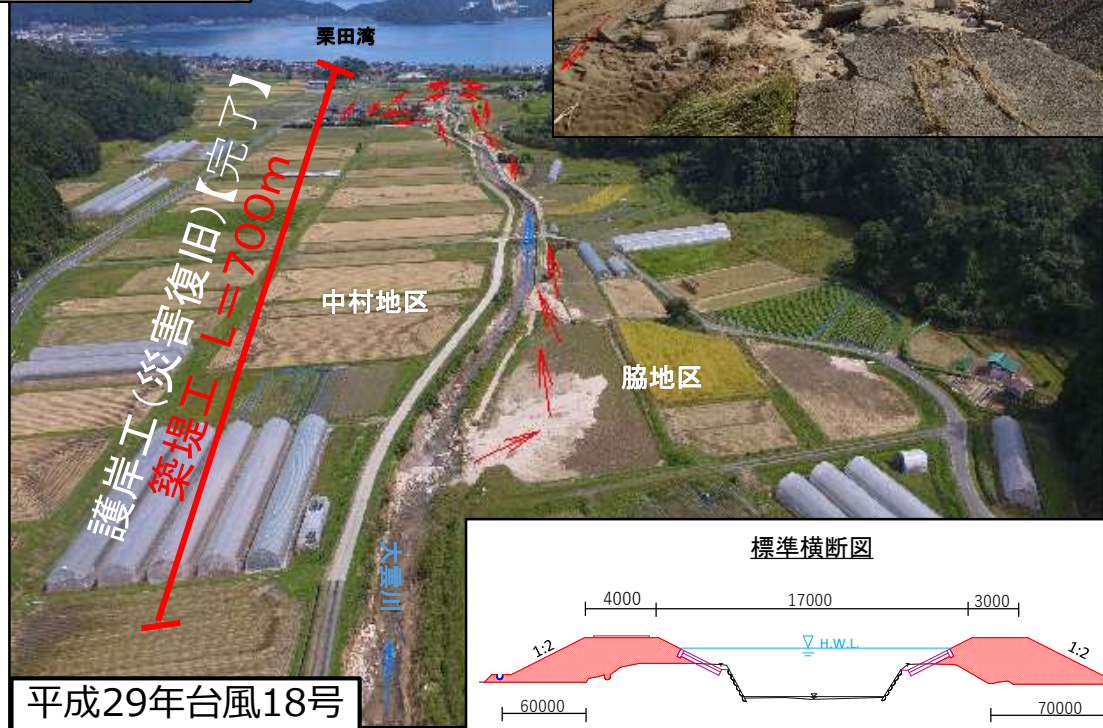


氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策事例

<堤防整備>

京都府 丹後広域振興局 建設部

- 二級河川大雲川では、平成29年台風18号により、中流部から大規模な溢水が発生し、人家や護岸崩壊等の被害が発生しました。
- 洪水の被害が発生した区間において、洪水を安全に流下させるために必要な護岸整備等を実施します。



平成29年台風18号

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

＜洪水ハザードマップの作成・配布＞

宮津市

ゲリラ豪雨や台風等による大規模洪水の発生に備え、市民に早めの避難行動を促すため、洪水ハザードマップを作成し、流域世帯へ配布（R元～R3）。津波（新規）、土砂災害（更新）のハザードマップも配布した（R3）。



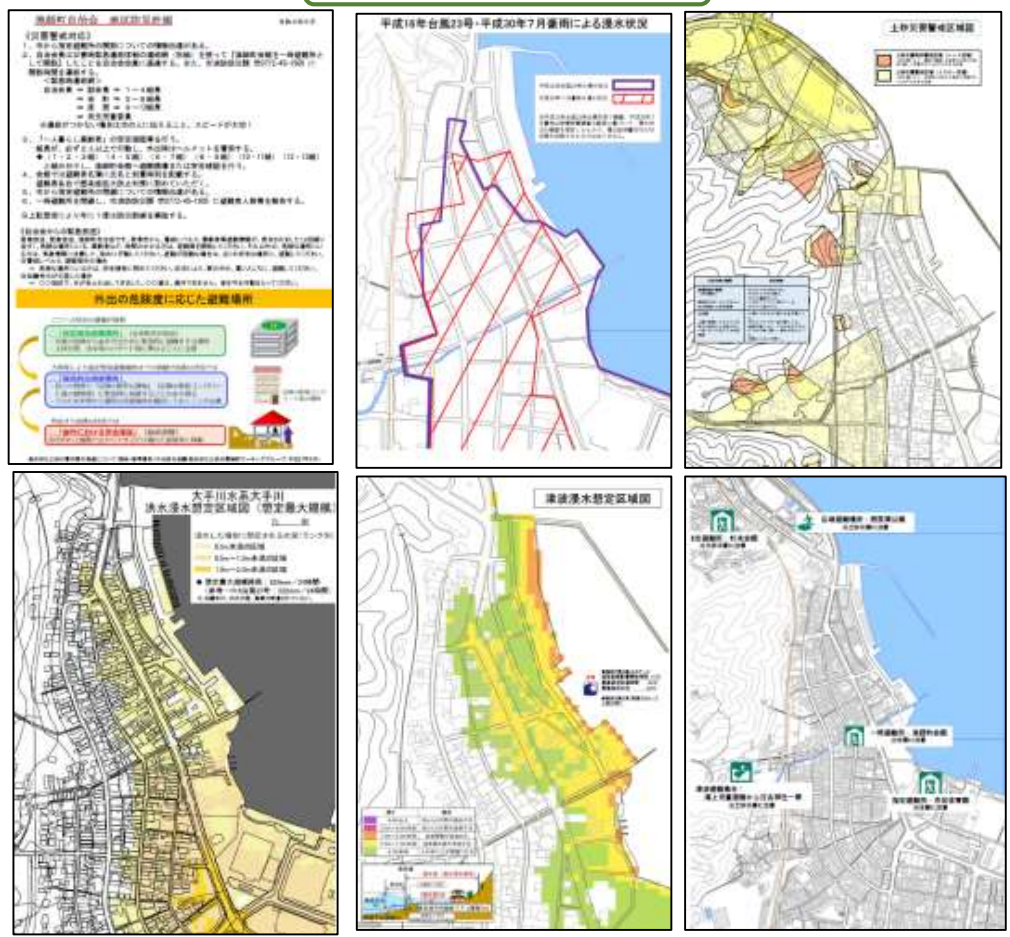
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

<地区防災計画の作成・推進>

地域住民が、地元の災害リスクについて話し合い、防災意識を高め、早期の避難行動が図れるよう、住民自らが災害避難計画を策定する「地区防災計画作成」を推進（R元～）。

作成自治会数：H26：6、R元：4、R2：5、R3：2、R4：7（R4.10月現在）

警戒体制+マップの冊子型



地域住民主体による地区防災計画の作成について

地区防災計画とは... ★災害が発生した場合における地区居住者等の相互の支援その他の当該地区における防災活動に関する計画 (災害対策基本法第42条第3項)

防災計画一計画的防災対策の整備・推進

- 中央防災会議：防災基本計画
- 指定行政機関・指定公共機関：防災業務計画
- 都道府県・市町村防災会議：地域防災計画
- 市町村の居住者・事業者：地区防災計画

★住民自らが、危険を知り、災害に備え、自分達と地域を守ろうとする計画

●地域住民が主体的に、地域の特性に応じて、自由な内容で作成するもの

■目的(基本方針):地域防災力を高めて、地域コミュニティを維持・活性化する

地区防災計画(案)

活動を発展させよう

- 行政と連携しよう
- 地域の活動と連携しよう
- 他の組織と話し合おう
- 取組を発信しよう

災害時の力を高めよう

- 事前に対策をしよう
- 教育・訓練をしよう
- 中継を見逃さず

	事前	発動	応急	復旧	復興
誰が					
何を					
どれだけ					
どのように					

平常時 TEAM 災害時

みんなで何ができるかな

自分では何をやるべきかな 行政では何をやってもらえるのかな

どんな災害があるんだろう

この辺りで災害に強いのか

共通課題「防災減災」で、よりよいまちづくり・安心安全の地域づくり

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

京都府 建設交通部

<排水ポンプ車>

- 河川の氾濫や内水などによる浸水被害発生時、現地において迅速かつ的確に排水作業を行い、浸水被害の軽減や地域における早期の復旧活動を支援
- 常設の排水施設がない河川等で機動的に湛水を排除

※排水ポンプ車4台(1台あたり排水能力30m³/min) で、府内一円に出動
※国、市所有の排水ポンプ車と連携

【対策内容】

- ・排水ポンプ車導入の検討
- ・出動要請の連絡体制の整備
- ・排水計画の策定、計画に基づく排水訓練の実施



R3年6月 綾部市と合同訓練を実施



H30年9月 土木事務所に排水ポンプ車を導入



近畿地方整備局の排水ポンプ車稼働状況
(H30年7月豪雨・福知山市荒河排水機場)



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

<水位計・河川監視カメラ等の設置・情報提供>

京都府 建設交通部

- 府管理河川において、洪水時の水位観測に特化した危機管理型水位計を126箇所を設置し、また、機能を限定した低コストな簡易型河川監視カメラを73箇所を設置し、府のホームページで住民への情報提供を行っています。



み こ

だい ぜん

神子川・大膳川水系 流域治水プロジェクト（案）



～歴史残るまちと港を紡ぐ流域治水の推進～

○気候変動による水災害の激甚化・頻発化に対応するため、神子川・大膳川水系においても、事前防災対策を進める必要があり、以下の取り組みを実施していくことで、流域における浸水被害の軽減を図る。

対策内容

■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河川等の整備
- ・河川等の維持管理
- ・流域の雨水貯留機能の向上・保全

■ 被害対象を減少させるための対策

※対策が実施され次第、掲載を予定

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・水害リスク情報空白地帯の解消
- ・住民の水害リスクに対する理解促進の取組
- ・土砂災害警戒区域等の指定
- ・土地等の購入に当たっての水害リスク情報の提供
- ・避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実
- ・確実な避難行動の実施
- ・排水ポンプ車出動要請の連絡体制の整備
- ・水防工法等の訓練や土のう等の備蓄資材確保など、水防活動の支援
- ・地図混乱地域解消

※災害からの安全な京都づくり条例に基づき、府、市等が一体となって防災対策を推進

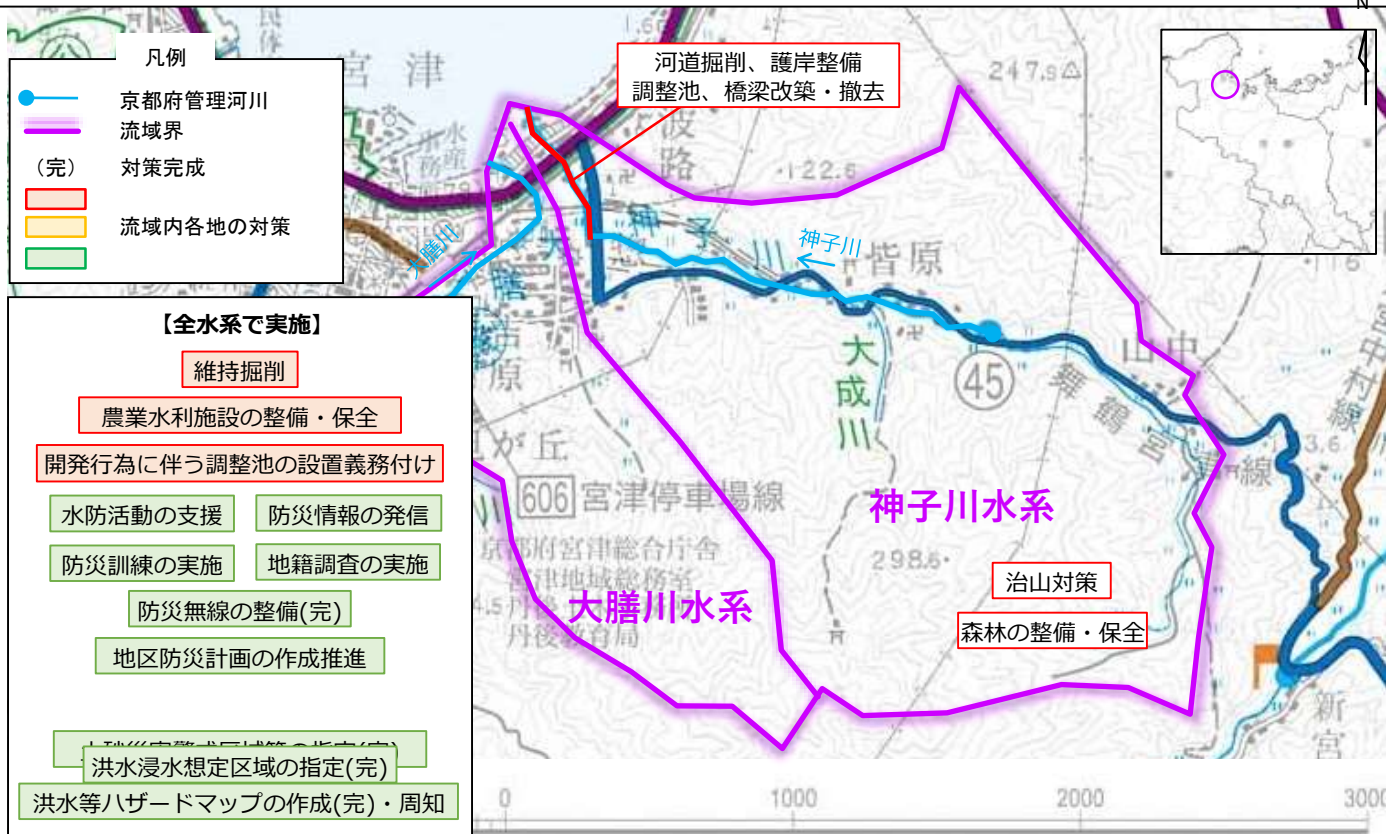


図-1 洪水ハザードマップの作成・配布 (提供：宮津市)



間伐実施前 間伐実施後

図-2 水源林造成事業による森林整備実施イメージ







図-3 神子川維持掘削 (丹後広域振興局)

※本図は全対策の内、代表的な対策を記載している。
※具体的な対策内容については今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

●神子川・大膳川水系では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、府、市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短期】 河川整備により、護岸を整備するとともに、河道掘削等の河川維持管理も実施する

【中長期】 河川整備により、さらなる流下能力の向上を図るとともに、「水災害リスク情報空白地帯の解消」や「住民の水害リスクに対する理解促進の取組」等のソフト対策を実施する

区分	主な対策内容	実施主体	工程 ( 対策実施中  対策完成)	
			短期(令和4年度～令和8年度)	中長期(令和9年度～令和33年度)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河川等整備	京都府		
	河川等の維持管理	京都府		
	流域の雨水貯留機能の向上・保全	宮津市		
被害対象を減少させるための対策	-	-		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水災害リスク情報空白地帯の解消	宮津市、京都府		
	住民の水害リスクに対する理解促進の取組	宮津市		
	土砂災害警戒区域等の指定	京都府		
	土地等の購入にあたっての水災害リスク情報の提供	宮津市		
	避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実	宮津市、京都府		
	確実な避難行動の実施	宮津市		
	水防工法等の訓練や土のう等の備蓄資材確保など水防活動の支援	宮津市		
	地図混乱地域の解消	宮津市		

気候変動を踏まえた更なる対策を推進

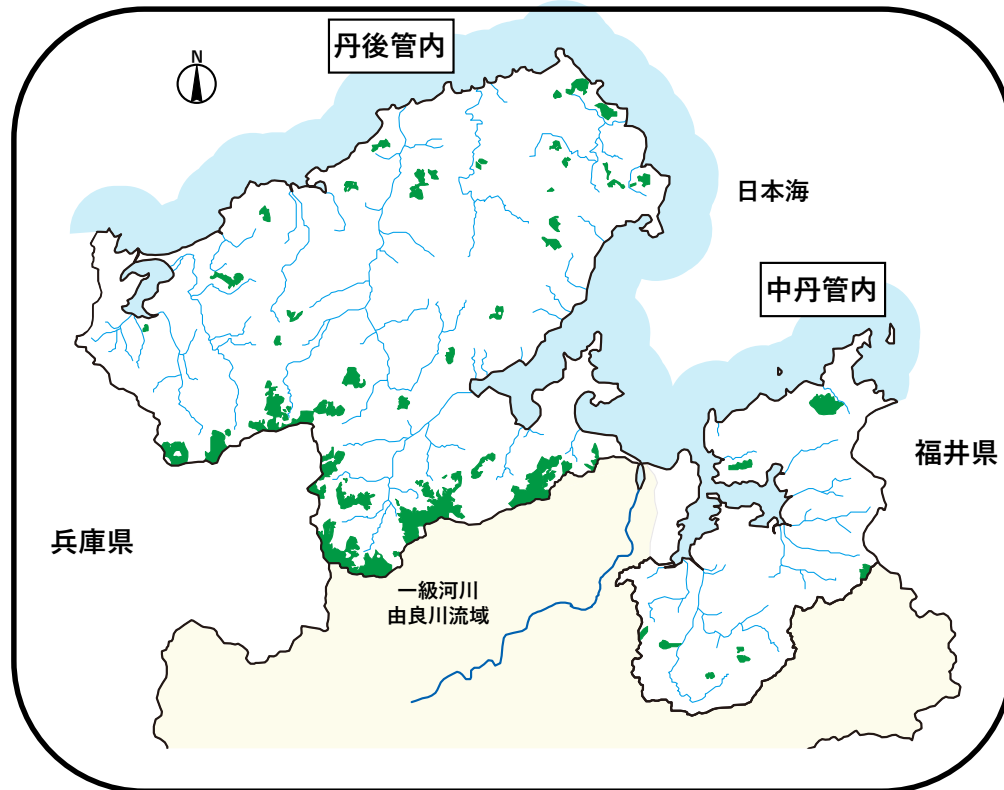
※スケジュールは今後の事業進捗の状況によって変更となる場合がある。

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策事例

<水源林造成事業による森林の整備・保全>

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター 近畿北陸整備局

- 水源林造成事業は、奥地水源地域の民有保安林のうち、所有者の自助努力等によっては適正な整備が見込めない箇所において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の有する公益的機能の高度発揮を図る事業です。
- 水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進します。
- 丹後管内流域における水源林造成事業地は、約109箇所（森林面積約4,505ha）であり、流域治水に資する除間伐等の森林整備を計画的に実施していきます。



氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策事例

〈河道拡幅〉

京都府 丹後広域振興局 建設部

- 河積阻害を軽減し、流下能力を向上させるために必要な河道拡幅や護岸整備及び洪水を安全に流下させるために河道の維持掘削を進めている。

〈河道拡幅及び護岸整備〉



〈維持掘削〉



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

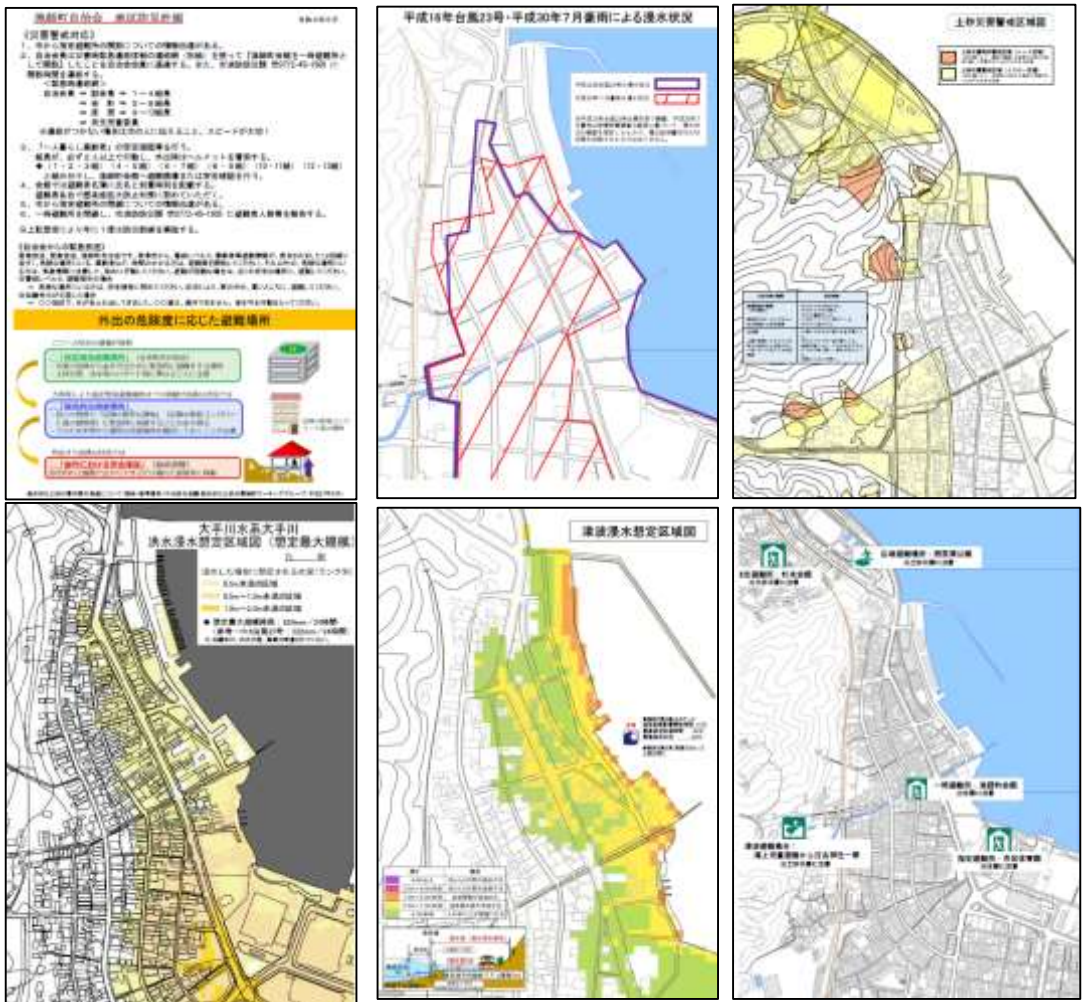
<地区防災計画の作成・推進>

宮津市

地域住民が、地元の災害リスクについて話し合い、防災意識を高め、早期の避難行動が図れるよう、住民自らが災害避難計画を策定する「地区防災計画作成」を推進（R元～）。

作成自治会数：H26：6、R元：4、R2：5、R3：2、R4：7（R4.10月現在）

警戒体制+マップの冊子型



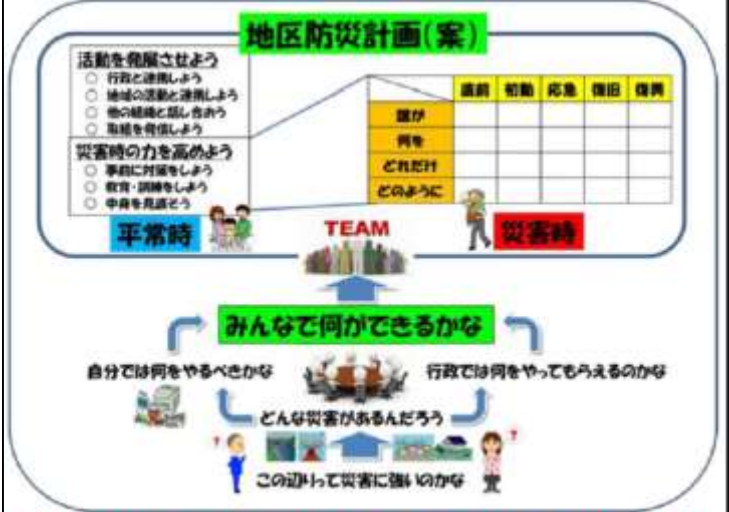
地域住民主体による地区防災計画の作成について

地区防災計画とは... ★災害が発生した場合における地区居住者等の相互の支援その他の当該地区における防災活動に関する計画
(災害対策基本法第42条第3項)

防災計画—計画的防災対策の整備・推進

- 中央防災会議：防災基本計画
- 指定行政機関・指定公共機関：防災業務計画
- 都道府県・市町村防災会議：地域防災計画
- 市町村の居住者・事業者：地区防災計画

- ★住民自らが、危険を知り、災害に備え、自分達と地域を守ろうとする計画
- 地域住民が主体的に、地域の特性に応じて、自由な内容で作成するもの
- 目的(基本方針):地域防災力を高めて、地域コミュニティを維持・活性化する



共通課題「防災減災」で、よりよいまちづくり・安心安全の地域づくり

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

<避難確保計画の作成促進>

洪水浸水想定区域内等の要配慮者利用施設の管理者等による避難確保計画作成を促進（R2～）災害警戒時に施設利用者・職員等の速やかな安全確保ができるよう必要な事項を定めるもの

警戒区域内にある13の入所型福祉施設はR3までにすべて作成

避難確保計画
作成数

～R元	R2	R3	R4.10	計
3	13	14	6	36

作成対象施設	区分	洪水	土砂	津波	実計	作成
	福祉	10	15	4	25	
学校	5	5	2	11	11	
医療	1		1	1	0	
計	16	20	7	37	36	

作成依頼を継続

※土砂+洪水など警戒区域が重複する施設あり

要配慮者利用施設の所有者・管理者の皆さまへ

避難確保計画の作成・避難訓練の実施について

～要配慮者利用施設における円滑かつ迅速な避難のために～

「水防法等の一部を改正する法律（平成29年法律第31号）」の施行により、要配慮者施設の避難体制の強化を図るため『水防法』及び『土砂災害防止法』が平成29年6月19日に改正されました。
国土防災強固化法の改正の経緯は「国土防災強固化法」および「土砂災害防止法」の改正の経緯に関するページをご覧ください。

ポイント！ 浸水想定区域や土砂災害警戒区域内の要配慮者利用施設等の管理者等は、避難確保計画の作成・避難訓練の実施が義務となっています。国土防災強固化法施行にその義務及び責任が定められた施設が対象です。

【浸水想定区域】 【土砂災害警戒区域】

【避難確保計画】とは、

- 社会福祉施設、学校、医療施設その他の主として以上の配慮を要するものが利用する施設です。
- 避難確保計画とは、災害発生時に、当該施設の利用者等が安全かつ迅速に避難するための計画です。
- 避難確保計画は、災害発生時に、当該施設の利用者等が安全かつ迅速に避難するための計画です。

1 避難確保計画の作成

※「避難確保計画の作成の手引き」を国土防災強固化法施行の経緯のページに掲載していますので、計画作成の参考としてください。

- 「避難確保計画」とは、水害や土砂災害が発生するおそれがある場合における利用者の円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要な事項を定めた計画です。
 - 防災体制
 - 避難誘導
 - 施設の整備
 - 防災教育及び訓練の実施
 - 自衛水防組織の業務（※水防法に基づき自衛水防組織を置く場合）
 - その他が利用者の円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要な措置に関する事項
- 避難確保計画が実効性あるものとするためには、施設管理者等の皆さまが主体的に作成いただくことが重要です。
- 作成した避難確保計画は、職員のほか、利用者やご家族の方々も日頃より確認することができるよう、その概要などを共用スペースの掲示板などに掲載しておくことも有効です。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

京都府 建設交通部

<排水ポンプ車>

- 河川の氾濫や内水などによる浸水被害発生時、現地において迅速かつ的確に排水作業を行い、浸水被害の軽減や地域における早期の復旧活動を支援
- 常設の排水施設がない河川等で機動的に湛水を排除

※排水ポンプ車4台(1台あたり排水能力30m³/min) で、府内一円に出動
※国、市所有の排水ポンプ車と連携

【対策内容】

- ・排水ポンプ車導入の検討
- ・出動要請の連絡体制の整備
- ・排水計画の策定、計画に基づく排水訓練の実施



R3年6月 綾部市と合同訓練を実施



H30年9月 土木事務所に排水ポンプ車を導入



近畿地方整備局の排水ポンプ車稼働状況
(H30年7月豪雨・福知山市荒河排水機場)

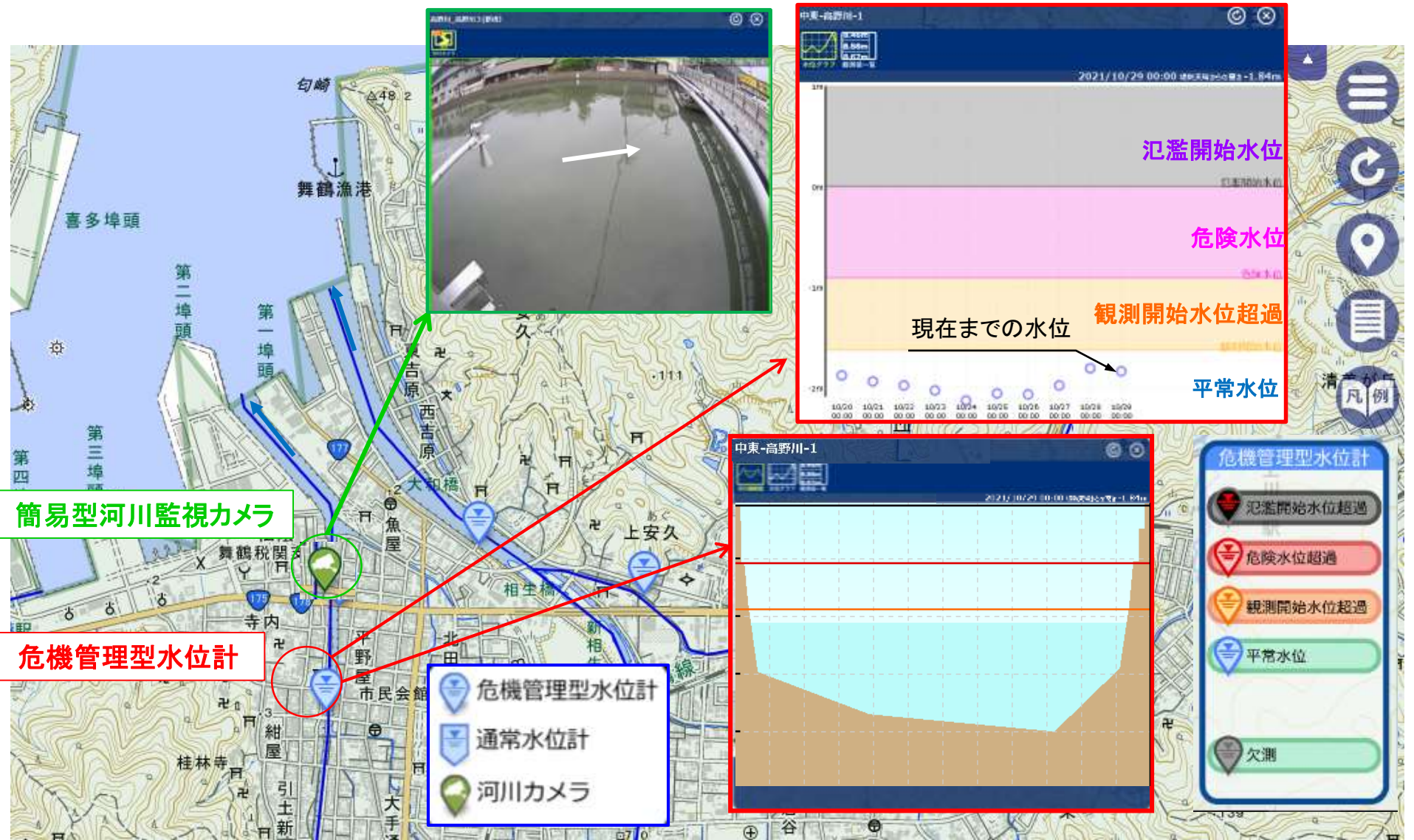


被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

<水位計・河川監視カメラ等の設置・情報提供>

京都府 建設交通部

- 府管理河川において、洪水時の水位観測に特化した危機管理型水位計を126箇所を設置し、また、機能を限定した低コストな簡易型河川監視カメラを73箇所を設置し、府のホームページで住民への情報提供を行っています。



つつ
筒川水系
流域治水プロジェクト（案）



～川を中心に広がる農地で流域治水を推進～

○気候変動による水災害の激甚化・頻発化に対応するため、筒川水系においても、事前防災対策を進める必要があり、以下の取り組みを実施していくことで、流域における浸水被害の軽減を図る。

対策内容

■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河川等整備
- ・土砂災害を防止する施設の整備・維持
- ・流域の雨水貯留機能の向上・保全

■ 被害対象を減少させるための対策

※対策が実施され次第、掲載を予定

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・水災害リスク情報空白地帯の解消
- ・住民の水害リスクに対する理解促進の取組
- ・土砂災害警戒区域等の指定
- ・避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実
- ・確実な避難行動の実施
- ・避難場所・避難経路の浸水対策
- ・排水ポンプ車出動要請の連絡体制の整備、排水計画に基づく排水訓練の実施
- ・水防工法等の訓練や土のう等の備蓄資材確保など、水防活動の支援
- ・被災自治体に対する支援の充実
- ・地図混乱地域の解消

※災害からの安全な京都づくり条例に基づき、府、市等が一体となって防災対策を推進



図-2 堤防整備高上げイメージ



図-3 全戸配布ネットワーク回覧板「いねばん」を用いた防災情報発信の高度化



図-1 治山事業実施イメージ



図-4 森林整備実施イメージ

























図-5 令和6年度完成予定防災センターイメージ（提供：伊根町）

※本図は全対策の内、代表的な対策を記載している。
※具体的な対策内容については今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

～川を中心に広がる農地で流域治水を推進～

- 筒川水系では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、府、市が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
 【短期】河川整備により、堤防の嵩上げを行うとともに、流域の雨水貯留機能の向上・保全を実施する
 【中長期】河川整備により、さらなる流下能力の向上を図るとともに、「水災害リスク情報空白地帯の解消」や「住民の水害リスクに対する理解促進の取組」等のソフト対策を実施する

区分	主な対策内容	実施主体	工程 ( 対策実施中  対策完成)	
			短期(令和4年度～令和8年度)	中長期(令和9年度～令和33年度)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河川等整備	京都府		
	土砂災害を防止する施設の整備・維持	京都府		
	流域の雨水貯留機能の向上・保全	宮津市、京都府		
被害対象を減少させるための対策	-	-		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水災害リスク情報空白地帯の解消	宮津市、伊根町、京都府		
	住民の水害リスクに対する理解促進の取組	宮津市		
	土砂災害警戒区域等の指定	京都府		
	避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実	宮津市、伊根町、京都府		
	確実な避難行動の実施	宮津市、伊根町		 令和6年度防災センター建設
	避難場所・避難経路の浸水対策	伊根町		
	排水ポンプ車導入、出動要請の連絡体制の整備、排水計画に基づく排水訓練の実施	伊根町		

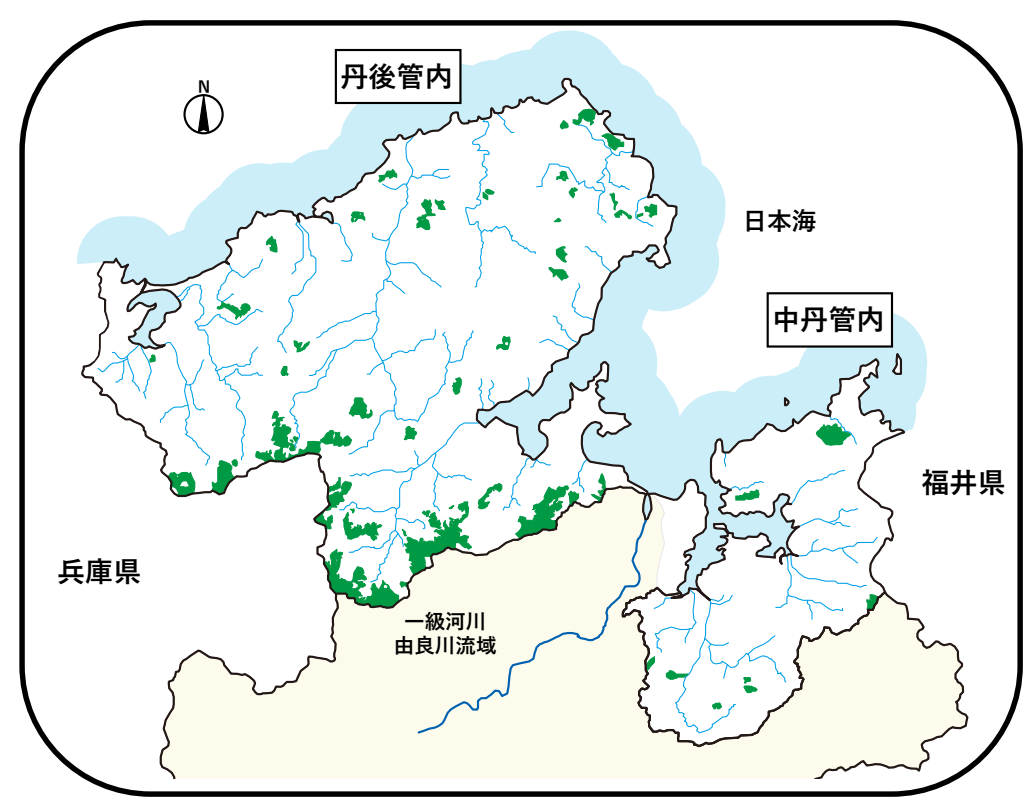
気候変動を踏まえた更なる対策を推進

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策事例

<水源林造成事業による森林の整備・保全>

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター 近畿北陸整備局

- 水源林造成事業は、奥地水源地域の民有保安林のうち、所有者の自助努力等によっては適正な整備が見込めない箇所において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の有する公益的機能の高度発揮を図る事業です。
- 水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進します。
- 丹後管内流域における水源林造成事業地は、約109箇所（森林面積約4,505ha）であり、流域治水に資する除間伐等の森林整備を計画的に実施していきます。



- 治山事業は森林の維持造成を通じて府民の生命・財産を保全するとともに、水源の涵養、生活環境の保全・形成等図る重要な事業です。京都府では、流木対策のための治山施設の設置、森林整備のほか人家や公共施設等に隣接した森林における風倒木等の危険木の伐採など、森林の持つ防災機能をはじめとした、多面的機能の向上を推進しています。

治山事業(国庫事業)

荒廃した溪流や山腹に対する復旧や未然防止対策
(管内28箇所を実施(当該流域で2箇所実施))

荒廃した溪流の復旧(実施前)



荒廃した溪流の復旧(実施後)



保安林危険木重点事業(京都府単独事業)

山地災害危険地区で危険度の高い箇所の流木対策
(管内20箇所を実施(当該流域で実施なし))

流木の撤去及び捕捉施設の設置(実施前)



流木の撤去及び捕捉施設の設置(実施後)



未来へつなぐ安心・安全の森づくり事業(京都府森林環境税事業)

地域住民による危険木の撤去等を支援
(管内でのべ6自治区で実施(当該流域で実施なし))

危険木の撤去(実施前)



危険木の撤去(実施後)



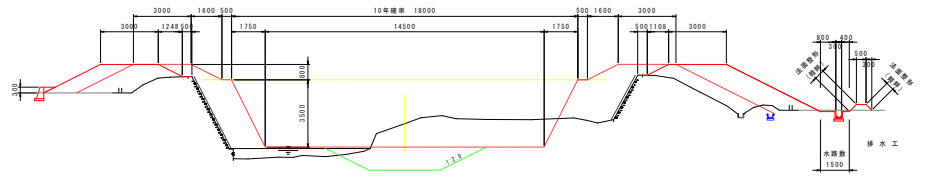
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策事例

<筒川の河川改修>

京都府 丹後広域振興局 建設部

- 洪水時に安全に水を流下させるために、堤防の強化・嵩上げを実施。
- 洪水時の水位を下げるために、河積確保を実施。

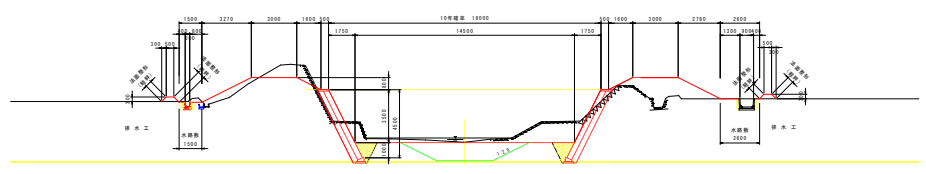
横断面図(上流)



上流側



横断面図(下流)



下流側



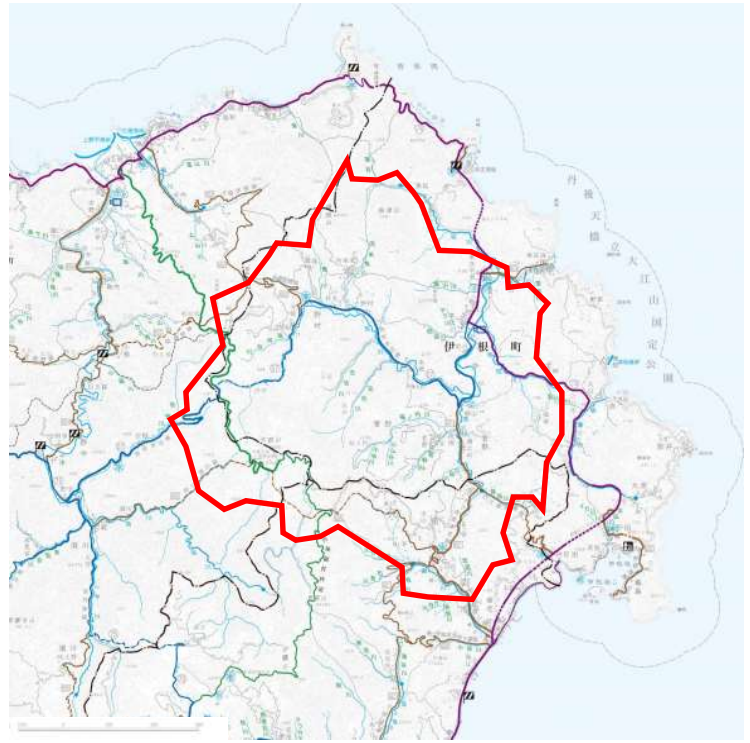
一部実施区間



- 近年、豪雨災害により府内各地で山地災害が多発する中、森林の防災・減災機能の発揮に対する期待がより一層高まっています。
- 森林整備事業は、整備の遅れた森林等において、間伐を始めとする森林整備を行うことにより、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全等の森林の有する多面的機能の維持・増進に資する事業です。

※国事業名：森林環境保全整備事業(農林水産省林野庁所管)

【取組内容】 間伐等の森林整備
【場 所】 伊根町菅野他



整備前後の森林の状況 (イメージ)

【整備前】



間伐等の整備が遅れた森林では、下層植生が著しく乏しく、豪雨時には雨水による浸食により、土砂等が流出しやすくなります。

【整備後】



整備が適正に実施された森林では、下層植生が繁茂し、土砂等の流出が少なくなります。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

伊根町

<避難場所の確保>

- 伊根町では、筒川流域の山間部に暮らす住民の安全確保のため、災害の危険が高まった時の避難所として伊根町防災センター（仮称）の建設を予定しています。
- 防災及び災害復旧の拠点として、浸水や地震などの自然災害に対して安全な計画とするとともに、災害発生時においても災害対策機能を保持するため、ライフラインが維持できる計画とします。
- 高齢化率が高まる中、だれもが利用しやすいユニバーサルデザインに十分配慮した計画とします。
- 完成予定 令和6年度



防災センターの外観イメージ



全体イメージ

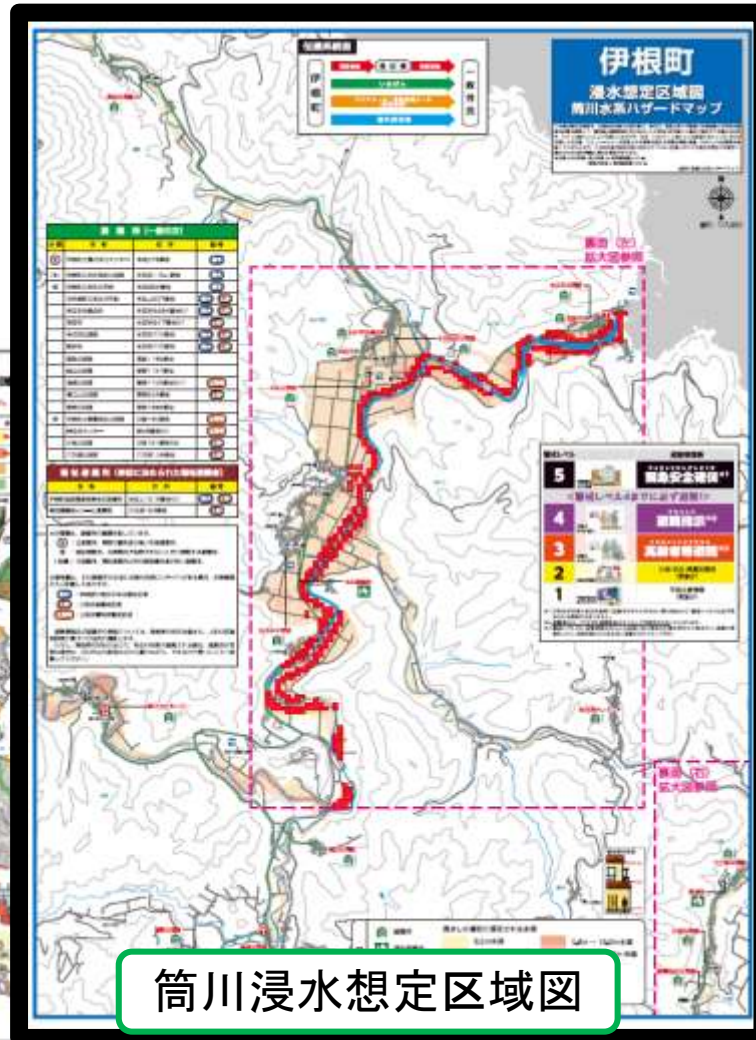
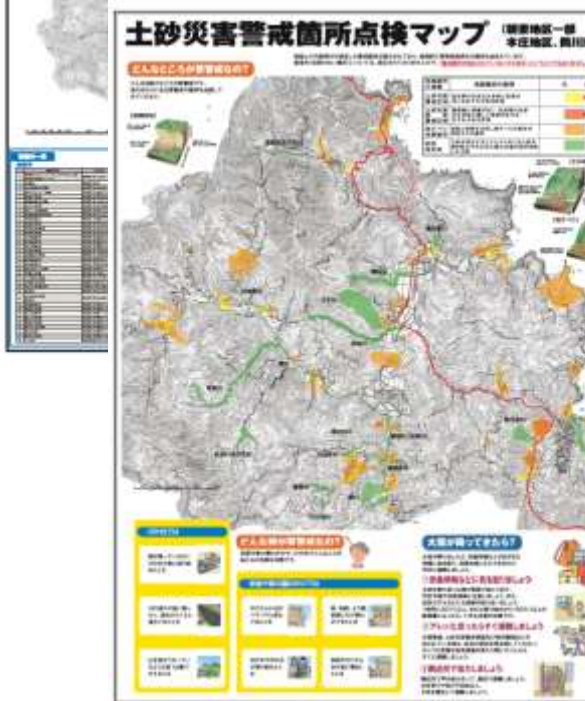


被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

＜洪水ハザードマップの作成・周知＞

伊根町

- 伊根町では最新の解析結果に基づき、筒川の「浸水想定区域図」を令和3年10月に更新し、周知を行いました。
- 浸水想定のほか、「土砂災害警戒箇所マップ」や「避難所位置図」などの各種防災マップも配布しています。
- これらハザードマップなど防災や安全に関わる情報は、町内の全世帯に配布したタブレット端末「いねばん」を使用し、いつでも確認することができます。



各種防災マップが
いつでも確認できる



ネットワーク回覧板
「いねばん」

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

<防災情報発信の高度化>

伊根町

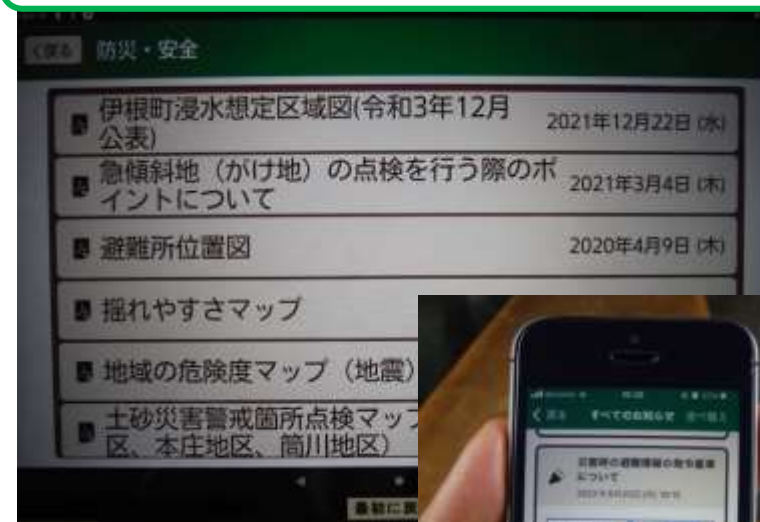
- 伊根町ではアナログ防災行政無線の更新に伴い、町内の全世帯にタブレット端末を配布し、ネットワーク回覧板の「いねばん」を運用しています。アナログ防災無線では、放送の聞き逃しや音声情報のみの放送で理解しにくい課題がありましたが、「いねばん」では情報を繰り返し確認することができ、音声のほか画像の配信も可能です。
- 有事の際には防災関連情報を随時発信できるほか、日ごろから浸水想定区域図や避難所などの情報を、画像で確認することができます。



ネットワーク回覧板「いねばん」
タブレット端末を全世帯に配布



各種防災情報をいつでも画像で確認することができる。



アプリをダウンロードすることでスマートフォンでも受信することができる。



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

京都府 建設交通部

<排水ポンプ車>

- 河川の氾濫や内水などによる浸水被害発生時、現地において迅速かつ的確に排水作業を行い、浸水被害の軽減や地域における早期の復旧活動を支援
- 常設の排水施設がない河川等で機動的に湛水を排除

※排水ポンプ車4台(1台あたり排水能力30m³/min) で、府内一円に出動
※国、市所有の排水ポンプ車と連携

【対策内容】

- ・排水ポンプ車導入の検討
- ・出動要請の連絡体制の整備
- ・排水計画の策定、計画に基づく排水訓練の実施



R3年6月 綾部市と合同訓練を実施



H30年9月 土木事務所に排水ポンプ車を導入



近畿地方整備局の排水ポンプ車稼働状況
(H30年7月豪雨・福知山市荒河排水機場)

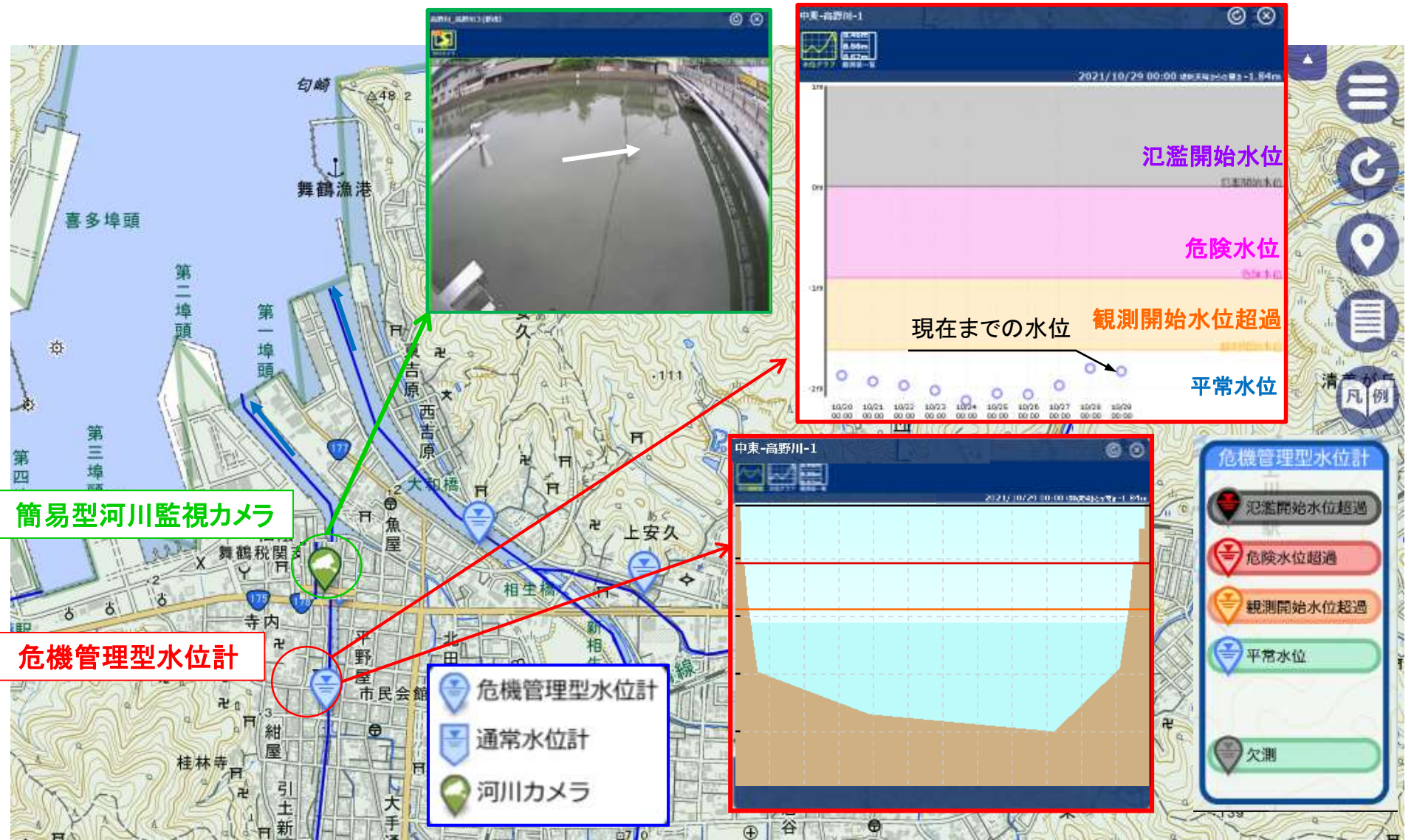


被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

<水位計・河川監視カメラ等の設置・情報提供>

京都府 建設交通部

- 府管理河川において、洪水時の水位観測に特化した危機管理型水位計を126箇所を設置し、また、機能を限定した低コストな簡易型河川監視カメラを73箇所を設置し、府のホームページで住民への情報提供を行っています。



よしの　　う

吉野川・宇川水系 流域治水プロジェクト(案)



～自然の港湾や林野など多自然川づくりで流域治水を推進～

○気候変動による水災害の激甚化・頻発化に対応するため、吉野川・宇川水系においても、事前防災対策を進める必要があり、以下の取り組みを実施していくことで、流域における浸水被害の軽減を図る。

対策内容

■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河川等整備
- ・河川等維持管理
- ・流域の雨水貯留機能の向上・保全

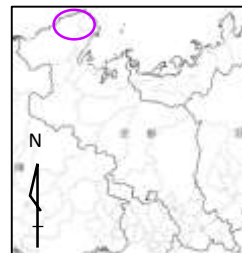
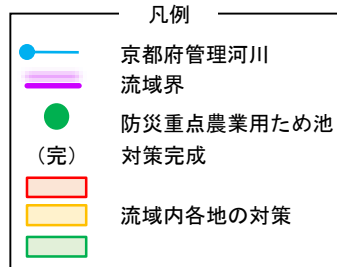
■ 被害対象を減少させるための対策

※対策が実施され次第、掲載を予定

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・水災害リスク情報空白地帯の解消
- ・住民の水害リスクに対する理解促進の取組
- ・土砂災害警戒区域等の指定
- ・避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実
- ・排水ポンプ車出動要請の連絡体制の整備
- ・被災自治体に対する支援の充実
- ・緊急車両の移動経路の確保

※災害からの安全な京都づくり条例に基づき、府、市等が一体となって防災対策を推進



標準断面図



図-3 河道拡幅事業



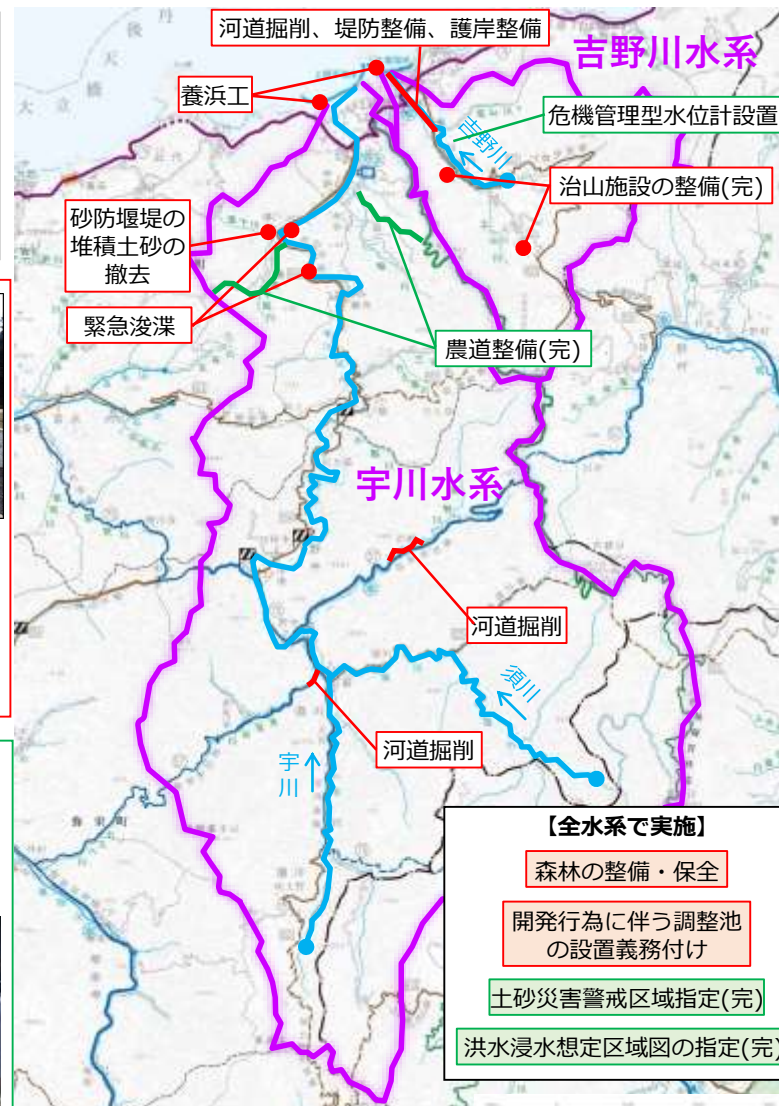
図-1 ハザードマップの作成・普及 (提供：京丹後市)



図-2 マイタイムラインの作成・推進 (提供：京丹後市)























図-4 地域と連携した訓練・研修 (提供：京丹後市)



※本図は全対策の内、代表的な対策を記載している。
※具体的な対策内容については今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

- 吉野川・宇川水系では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、府、市が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
 - 【短期】河川整備により、河積を広げる河道拡幅を行うとともに、「流域の雨水貯留機能の向上・保全」を実施する
 - 【中長期】河川整備により、さらなる流下能力の向上を図るとともに、「避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実」や「住民の水害リスクに対する理解促進の取組」等のソフト対策を実施する

区分	主な対策内容	実施主体	工程 ( 対策実施中  対策完成)	
			短期(令和4年度～令和8年度)	中長期(令和9年度～令和33年度)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河川等整備	京都府		
	河川等維持管理	京丹後市		
	流域の雨水貯留機能の向上・保全	宮津市、京都府		
被害対象を減少させるための対策	-	-		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水災害リスク情報空白地帯の解消	京丹後市、京都府		
	住民の水害リスクに対する理解促進の取組	京丹後市		
	土砂災害警戒区域等の指定	京都府		
	避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実	京丹後市		
	被災自治体に対する支援の充実	京丹後市		

気候変動を踏まえた更なる対策を推進

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策事例

<治山事業>

京都府 丹後広域振興局 農林商工部

- 治山事業は森林の維持造成を通じて府民の生命・財産を保全するとともに、水源の涵養、生活環境の保全・形成等図る重要な事業です。京都府では、流木対策のための治山施設の設置、森林整備のほか人家や公共施設等に隣接した森林における風倒木等の危険木の伐採など、森林の持つ防災機能をはじめとした、多面的機能の向上を推進しています。

治山事業(国庫事業)

荒廃した溪流や山腹に対する復旧や未然防止対策
(管内28箇所を実施(当該流域で2箇所実施))

荒廃した溪流の復旧(実施前)



荒廃した溪流の復旧(実施後)



保安林危険木重点事業(京都府単独事業)

山地災害危険地区で危険度の高い箇所の流木対策
(管内20箇所を実施(当該流域で実施なし))

流木の撤去及び捕捉施設の設置(実施前)



流木の撤去及び捕捉施設の設置(実施後)



未来へつなぐ安心・安全の森づくり事業(京都府森林環境税事業)

地域住民による危険木の撤去等を支援
(管内でのべ6自治区で実施(当該流域で実施なし))

危険木の撤去(実施前)



危険木の撤去(実施後)



氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策事例

〈河道拡幅〉

京都府 丹後広域振興局 建設部

- 河積を拡大し、治水安全度を向上させるために河道拡幅事業を実施。

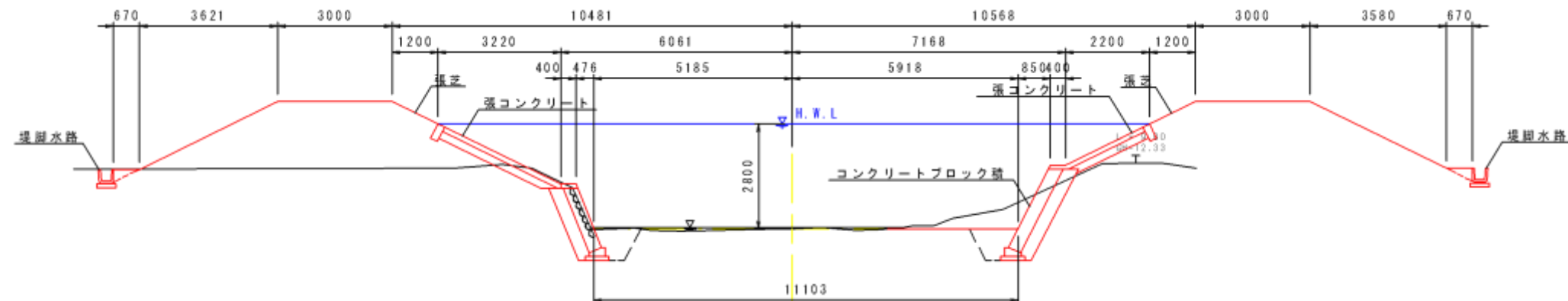
平成29年9月台風18号被災時



令和3年3月完了時



○代表横断図



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

<ハザードマップの作成・普及>

- 災害時における避難の促進、避難行動等を市民に周知するため、土砂災害・洪水・地震等に対応した各種マップ作成し、市内全世帯への配布を行った。また、転入者等に対して適宜配布を行っている。

京丹後市 洪水・土砂災害ハザードマップ

この洪水・土砂災害ハザードマップでは、下にある避難行動判断フローの流れに沿って、自宅周辺の危険性を把握し、避難が必要か確認してください。
次に、右のページにあるマイ・タイムラインを確認して、警戒レベルに応じてどのような行動が必要かを確認し、記入してください。
さらに、下のページにあるような持ち出し袋や備蓄品、特殊の収容方法などを確認し、いざというときにきちんとして行動できるように備えてください。

避難行動判断フロー

あなたができる避難行動は？

1. ハザードマップで自宅がどのレベルに属しているかを確認し、色をつけておきましょう。

2. 警戒レベル1に属している場合は、避難準備が完了しているかどうかを確認し、避難が必要かを確認してください。

3. 警戒レベル2に属している場合は、避難準備が完了しているかどうかを確認し、避難が必要かを確認してください。

4. 警戒レベル3に属している場合は、避難準備が完了しているかどうかを確認し、避難が必要かを確認してください。

5. 警戒レベル4に属している場合は、避難準備が完了しているかどうかを確認し、避難が必要かを確認してください。

6. 警戒レベル5に属している場合は、避難準備が完了しているかどうかを確認し、避難が必要かを確認してください。

マイ・タイムライン

自宅の災害リスクは？

浸水深 m未満
(0.5m〜2.0m未満の浸水深の場合、1層は想定最大)

土砂災害 河川 警戒区域
区域内・区域外

どこに避難する？
市の避難施設

誰に声をかける？誰と避げる？
<声をかける人> 家族・近所の人
<支援者連絡先> 市役所・消防署・警察署・消防団

避難のポイント

- 避難は早いうちに
→ 一時的な避難は危険です！
- 雨が強くなる前に避難
→ テレビや気象庁などで雨や風が強くなる情報を確認
- 自宅が安全な場合は自宅に留まる
→ ハザードマップで危険な場所(災害リスク)を確認

警戒レベルと状況	警戒レベル1 今後災害が顕在化の恐れ	警戒レベル2 災害が顕在化	警戒レベル3 災害の恐れあり	警戒レベル4 災害の恐れ大	警戒レベル5 災害発生又は迫近
避難情報(市発令)			高齢者等避難	避難指示	緊急安全確保 ^{※1}
防災気象情報	早期注意情報 ^{※1}	大雨・洪水・高潮注意情報	洪水警報・大雨警報(土砂災害)	土砂災害警戒情報 など	大雨特別警報(洪水等) 大雨特別警報(土砂災害)
みなさんが取るべき行動	災害への心構えを高める	自らの避難行動を確認する	危険な場所から高齢者等は避難 ^{※2}	危険な場所から全員避難	命の危険直ちに安全確保!

家屋倒壊等危険想定区域

洪水時に、家屋の倒壊・流失をきたすような激しい流れが発生するおそれがある、堤防のない地域を「家屋倒壊等危険想定区域」として指定しています。この区域では、自宅等が倒壊するおそれがあることから、浸水区域外への避難の迅速な実施が必要となります。

河川氾濫

河川の激しい流れによって堤防が崩れ、家屋が倒壊・流失するおそれがある区域です。

沿道浸水

河川の氾濫によって、道路が浸水するおそれがある区域です。

あなたの行動を記入してください

避難する行動

避難する

災害への心構えを高める
テレビ、ラジオの災害予報に注意する
マイ・タイムラインを確認
家族の安全確保を確認
備蓄品のチェック
家屋倒壊の恐れを事前に

Map showing hazard zones (red and orange) and evacuation routes (blue arrows) in Kyodanago City. Key locations include Kyodanago City Hall, various schools, and community centers.

マップの他、マイタイムライン、気象情報の見方、避難行動の方法、避難情報の種類、水位の程度、非常用持ち出し袋の防災備蓄品等の紹介を行っています。

- 地域または家庭におけるタイムラインを作成し、危険区域からの早期避難やいざという時の避難所や避難経路を再確認する。

水害対策

- SUIGAI TAISAKU -

「避難行動タイムライン」とは



いつどこへどのように
避難するかを定めておく計画です。



- 「いつ」を決めることで、迷う時間を減らし、見通しを持って速やかな行動を行うことができます。
- 「どこへ」を決めることで、指定緊急避難場所への移動が難しい場合でも、近隣の比較的 안전한場所に避難することができます。
- 「どのように」避難するかを決めることで、避難時の協力関係を確認することができます。

--- 作成例 ---

		災害・避難カード	
		水 害	土砂災害
いつ		避難の場合 (スイッチ)	〇〇川の洪水警報の危険度分布がうすむらさき色
どこへ	避難先	●●小学校	▲▲中学校
	次ぎの避難場所	◆◆さんのお家	■■公民館
どのように		メモ欄	
		・避難の際は、防災グッズを持ち出すこと ・〇〇さんに避難の声をかけようこと ・災害伝言ダイヤル(171)	



防災

水害時の「避難行動タイムライン」のすすめ

災害はいつ来てもおかしくない！備えあれば憂いなし

- 市広報誌掲載
- 区長会等での呼びかけ
- ワークショップの開催

地域の自主防災組織などもタイムラインの作成に取り組んでいます。
あなたの地域でも作成を！

タイムライン作成に向けたワークショップの様子 (久美浜一区)

- 年1回地域や自主防災組織、防災関係機関等と連携を行い、自然災害を想定した各種訓練を実施、また災害時の理念「自助」「共助」を推進する取組として地域防災リーダー研修で防災・減災につなげる。



- 避難情報、行動、避難所運営訓練
- 消防資機材の点検、使用訓練
- 危険箇所パトロール
- 地域防災力の向上のための講演、研修など



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

<避難体制等の強化>

京丹後市

● 風水害における土砂災害や洪水での避難を呼びかける避難情報の理解と積極的な活用をすすめるための周知・広報を行っている。

災害そなえるポイント

災害（台風・大雨など）に備えた避難行動を。point

近年、これまでにない規模の豪雨などが各地に甚大な被害を被害をもたらしています。「自分の命は自分で守る」、「自分たちの地域は自分で守る」という自衛・共助の防災意識を持ち、災害から身を守るためのポイントを押さえて、日頃から災害に備えよう。

【主な広報媒体】

- 市広報誌
- 市ホームページ
- 市ケーブルTV

Point 1. 逃げ遅れゼロへ 早めの避難 を考えておく。

警戒レベル3や4が出たら、避難行動を早めよう！

警戒レベル3や4が出たら、避難行動を早めよう！

避難レベル3や4が出たら、避難行動を早めよう！

避難レベル3や4が出たら、避難行動を早めよう！

Point 2. 逃げ遅れゼロへ 警戒レベルを確認する。

早期注意警報	注意報	高齢者避難	避難指示	緊急安全確保
<p>災害・避難グッズの準備</p>	<p>避難行動避難経路の確認</p>	<p>高齢者・障害者、乳幼児とその介護者の方は避難（特別要する方）</p>	<p>速やかに避難！</p>	<p>緊急安全確保</p>
警戒レベル1	警戒レベル2	警戒レベル3	警戒レベル4	警戒レベル5

警戒レベルとは、自分の判断で避難行動ができるよう気象庁が出す防災気象情報（警戒レベル1～2）と市が出す避難情報（警戒レベル3～5）のことで、警戒レベル3または4が発表された地域の方は、速やかに避難してください。

Point 4. 備えあれば憂いなし 防災マップ 確認のポイント。

- 自宅や勤務先や通学路などにある身近な危険場所を確認。
- どのような災害が起こるか考えて避難場所・経路を確認。

避難経路を確認したら、実際に歩いてみて、危険な場所がないか確認してみましょう。また、家族や地域でも話し合ってみましょう。

Check! 新型コロナウイルス感染症に気を付けた避難のポイント!

災害時は、危険な場所にいる人は避難することが原則です。避難する場合は、感染症対策を踏まえた避難行動を。

避難場所へ気を付けること

- 避難場所に入る前に、体調チェックを受けよう
- 避難場所が狭い場合は、避難場所の隅に身をよせよう
- 避難場所のルールに基づいて行動しよう

避難時に気を付けること

- マスクを着用して避難場所へ向かいましょう
- 咳やくしゃみなどの症状がなくても、咳やくしゃみをしたときはマスクを着用し、周囲の人と距離をとりましょう

Point 3. 備えあれば憂いなし 避難行動判定フロー モチエックしよう。

洪水や土砂災害に備えて、市が配布している「防災マップ」や「避難行動判定フロー」をチェックしてみましょう。また、広域さよならたんこも月号掲載の自分や家族がいざという時に行動できる計画「避難行動タイムライン」を作っておきましょう。

避難行動判定フロー

まず、洪水や土砂災害の京丹後市防災MAPで自分の家がどこにあるか確認しましょう。

自宅が洪水想定区域や土砂災害区域のなかにありますか？

- はい → 避難行動判定フローを確認し、避難行動を早めよう。
- いいえ → 避難行動判定フローを確認し、避難行動を早めよう。

避難行動判定フローを確認したら、避難行動を早めよう。

避難行動判定フローを確認したら、避難行動を早めよう。

避難行動判定フローを確認したら、避難行動を早めよう。

避難行動判定フローを確認したら、避難行動を早めよう。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

<ため池ハザードマップの作成>

- 京丹後市に存在する防災重点農業用ため池を対象に、万が一に備え被害想定区域等を表示した「ため池ハザードマップ」を作成

■ 防災重点ため池ハザードマップ

・京丹後市では、防災重点ため池が59箇所存在します。

・万が一ため池が決壊したときに備えて、被害想定区域や避難場所等が表示された「ため池ハザードマップ」作成を実施しています。



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

京都府 建設交通部

<排水ポンプ車>

- 河川の氾濫や内水などによる浸水被害発生時、現地において迅速かつ的確に排水作業を行い、浸水被害の軽減や地域における早期の復旧活動を支援
- 常設の排水施設がない河川等で機動的に湛水を排除

※排水ポンプ車4台(1台あたり排水能力30m³/min) で、府内一円に出動
※国、市所有の排水ポンプ車と連携

【対策内容】

- ・排水ポンプ車導入の検討
- ・出動要請の連絡体制の整備
- ・排水計画の策定、計画に基づく排水訓練の実施



R3年6月 綾部市と合同訓練を実施



H30年9月 土木事務所に排水ポンプ車を導入



近畿地方整備局の排水ポンプ車稼働状況
(H30年7月豪雨・福知山市荒河排水機場)



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

<水位計・河川監視カメラ等の設置・情報提供>

京都府 建設交通部

- 府管理河川において、洪水時の水位観測に特化した危機管理型水位計を126箇所を設置し、また、機能を限定した低コストな簡易型河川監視カメラを73箇所を設置し、府のホームページで住民への情報提供を行っています。



しん ひ こし

新樋越川水系

















流域治水プロジェクト(案)



●新樋越川水系では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、府、市が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短期】 河道掘削等の河川維持管理を行うとともに、「海岸保全施設の整備・維持」を行う

【中長期】 河川整備により、さらなる流下能力の向上を図るとともに、「避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実」や「住民の水害リスクに対する理解促進の取組」等のソフト対策を実施する

区分	主な対策内容	実施主体	工程 ( 対策実施中  対策完成)	
			短期 (令和4年度～令和8年度)	中長期 (令和9年度～令和33年度)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河川等の維持管理	京丹後市、京都府		
	海岸保全施設の整備・維持	京都府		
被害対象を減少させるための対策	-	-		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水害リスク情報空白地帯の解消	京丹後市、京都府		
	住民の水害リスクに対する理解促進の取組	京丹後市		
	土砂災害警戒区域等の指定	京都府		
	避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実	京丹後市、京都府		
	被災自治体に対する支援の充実	京丹後市		

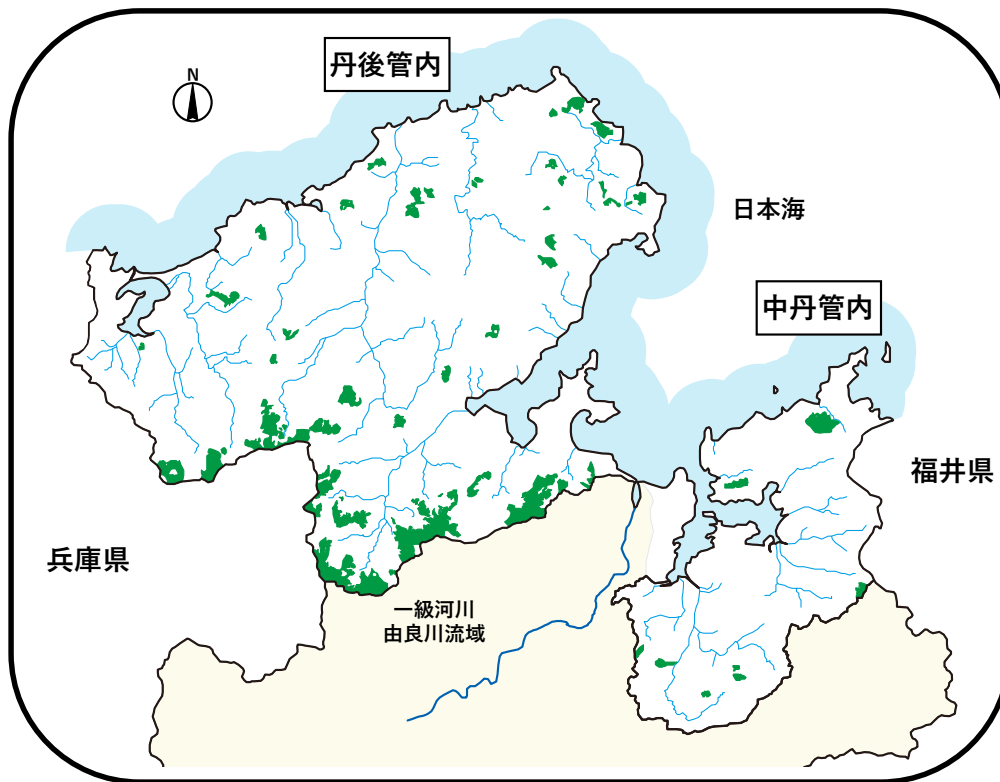
気候変動を踏まえた更なる対策を推進

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策事例

<水源林造成事業による森林の整備・保全>

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター 近畿北陸整備局

- 水源林造成事業は、奥地水源地域の民有保安林のうち、所有者の自助努力等によっては適正な整備が見込めない箇所において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の有する公益的機能の高度発揮を図る事業です。
- 水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進します。
- 丹後管内流域における水源林造成事業地は、約109箇所（森林面積約4,505ha）であり、流域治水に資する除間伐等の森林整備を計画的に実施していきます。



氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策事例 〈河道掘削〉

京都府 丹後広域振興局 建設部

- 河積阻害を軽減し、流下能力を向上させるために河道の維持管理掘削を進めている。

○位置図、写真

樋越川

離湖

新樋越川

大橋川

京丹後市網野町小浜地内 他

浚渫〈維持掘削〉

施工前



施工後



施工中



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

京丹後市

<ハザードマップの作成・普及>

- 災害時における避難の促進、避難行動等を市民に周知するため、土砂災害・洪水・地震等に対応した各種マップ作成し、市内全世帯への配布を行った。また、転入者等に対して適宜配布を行っている。

京丹後市 洪水・土砂災害ハザードマップ

この洪水・土砂災害ハザードマップでは、下にある避難行動判断フローの流れに沿って、自宅周辺の危険性を把握し、避難が必要か確認してください。
次に、右のページにあるマイ・タイムラインを確認して、警戒レベルに応じてどのような行動が必要か確認し、記入してください。
さらに、下のページにあるような持ち出し袋や備蓄品、避難の取組方法などを確認し、いざというときにきちんとして行動できるように備えてください。

避難行動判断フロー

あなたごとく避難行動は？

1. ハザードマップで自宅周辺の危険性を確認し、確認してください。

2. 警戒レベル1に該当する場合は、避難準備が完了しているかどうかを確認してください。

3. 警戒レベル2に該当する場合は、避難準備が完了しているかどうかを確認してください。

4. 警戒レベル3に該当する場合は、避難準備が完了しているかどうかを確認してください。

5. 警戒レベル4に該当する場合は、避難準備が完了しているかどうかを確認してください。

6. 警戒レベル5に該当する場合は、避難準備が完了しているかどうかを確認してください。

マイ・タイムライン

自宅の災害リスクは？

浸水深 1m未満

土砂災害 河川 警戒区域 区域内・区域外

どこに避難する？

避難のポイント

警戒レベル	警戒レベル1	警戒レベル2	警戒レベル3	警戒レベル4	警戒レベル5
警戒レベルと状況	今後災害が予測される	災害状況悪化	災害のおそれあり	災害のおそれ高い	災害発生又は迫近
避難情報(市発令)			高齢者等避難	避難指示	緊急安全確保 ^{※1}
防災気象情報	早期注意情報 ^{※1}	大雨・洪水・高潮注意情報	洪水警報・大雨警報(土砂災害)	土砂災害警戒情報 など	大雨特別警報(洪水等) 大雨特別警報(土砂災害)
みなさんが取るべき行動	災害への心構えを高める	自らの避難行動を確認する	危険な場所から高齢者等は避難 ^{※2}	危険な場所から全員避難	命の危険直ちに安全確保!

あなたの行動を記入してください

避難する

※1 避難行動上必要な避難行動の準備が完了する前に発生します。 ※2 避難行動が完了する前に発生する災害に備えて避難行動を完了させることにより、命の危険を回避する可能性があります。

マップの他、マイタイムライン、気象情報の見方、避難行動の方法、避難情報の種類、水位の程度、非常用持ち出し袋の防災備蓄品等の紹介を行っています。

<マイタイムラインの作成推進>

- 地域または家庭におけるタイムラインを作成し、危険区域からの早期避難やいざという時の避難所や避難経路を再確認する。

水害対策

- SUIGAI TAISAKU -

「避難行動タイムライン」とは



いつどこへどのように避難するかを定めておく計画です。



- 「いつ」を決めることで、迷う時間を減らし、見通しを持って速やかな行動を行うことができます。
- 「どこへ」を決めることで、指定緊急避難場所への移動が難しい場合でも、近隣の比較的 안전한場所に避難することができます。
- 「どのように」避難するかを決めることで、避難時の協力関係を確認することができます。

--- 作成例 ---

		災害・避難カード		
		水 害	土砂災害	
いつ		避難の場合 (スイッチ)	〇〇川の洪水警報の危険度分布がうすむらさき色	自分の住んでいる地域で土砂災害警報が発令
どこへ	避難先	指定緊急避難場所	●●小学校	▲▲中学校
	次善の避難場所		◆◆さんのお家	■■■公民館
どのように		メモ欄	・避難の際は、防災グッズを持ち出すこと ・〇〇さんに避難の声をかけよう ・災害伝言ダイヤル(171)	



防災

水害時の「避難行動タイムライン」のすすめ

災害はいつ来てもおかしくない！備えあれば憂いなし

- 市広報誌掲載
- 区長会等での呼びかけ
- ワークショップの開催

地域の自主防災組織などもタイムラインの作成に取り組んでいます。
あなたの地域でも作成を！



タイムライン作成に向けたワークショップの様子 (久美浜一区)

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

京丹後市

<地域と連携した訓練・研修>

- 年1回地域や自主防災組織、防災関係機関等と連携を行い、自然災害を想定した各種訓練を実施、また災害時の理念「自助」「共助」を推進する取組として地域防災リーダー研修で防災・減災につなげる。

令和3年度 京丹後市防災訓練

1. 自主防災組織の活動支援

2. 地域防災力の向上のための講演・研修



- 避難情報、行動、避難所運営訓練
- 消防資機材の点検、使用訓練
- 危険箇所パトロール
- 地域防災力の向上のための講演、研修など



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

京都府 建設交通部

<排水ポンプ車>

- 河川の氾濫や内水などによる浸水被害発生時、現地において迅速かつ的確に排水作業を行い、浸水被害の軽減や地域における早期の復旧活動を支援
- 常設の排水施設がない河川等で機動的に湛水を排除

※排水ポンプ車4台(1台あたり排水能力30m³/min) で、府内一円に出動
※国、市所有の排水ポンプ車と連携

【対策内容】

- ・排水ポンプ車導入の検討
- ・出動要請の連絡体制の整備
- ・排水計画の策定、計画に基づく排水訓練の実施



R3年6月 綾部市と合同訓練を実施



H30年9月 土木事務所に排水ポンプ車を導入



近畿地方整備局の排水ポンプ車稼働状況
(H30年7月豪雨・福知山市荒河排水機場)



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

<水位計・河川監視カメラ等の設置・情報提供>

京都府 建設交通部

- 府管理河川において、洪水時の水位観測に特化した危機管理型水位計を126箇所を設置し、また、機能を限定した低コストな簡易型河川監視カメラを73箇所を設置し、府のホームページで住民への情報提供を行っています。



き づ
木津川水系
流域治水プロジェクト(案)



～山地に囲まれた観光地での流域治水の推進～

○気候変動による水災害の激甚化・頻発化に備え、木津川水系においても、事前防災対策を進める必要があり、以下の取り組みを実施していくことで、流域における浸水被害の軽減を図る。

対策内容

■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河川等整備
- ・河川等の維持管理
- ・流域の雨水貯留機能の向上・保全

■ 被害対象を減少させるための対策

※対策が実施され次第、掲載を予定

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・水災害リスク情報空白地帯の解消
- ・住民の水害リスクに対する理解促進の取組
- ・土砂災害警戒区域等の指定
- ・避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実
- ・排水ポンプ車出動要請の連絡体制の整備
- ・被災自治体に対する支援の充実

※災害からの安全な京都づくり条例に基づき、府、市等が一体となって防災対策を推進

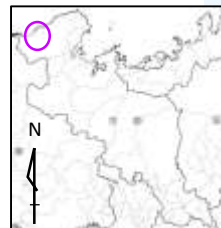
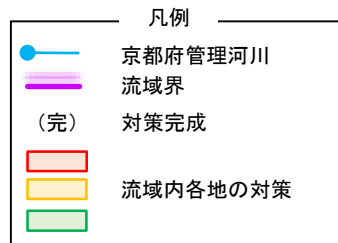


図-3 ハザードマップの作成・周知 (提供：京丹後市)

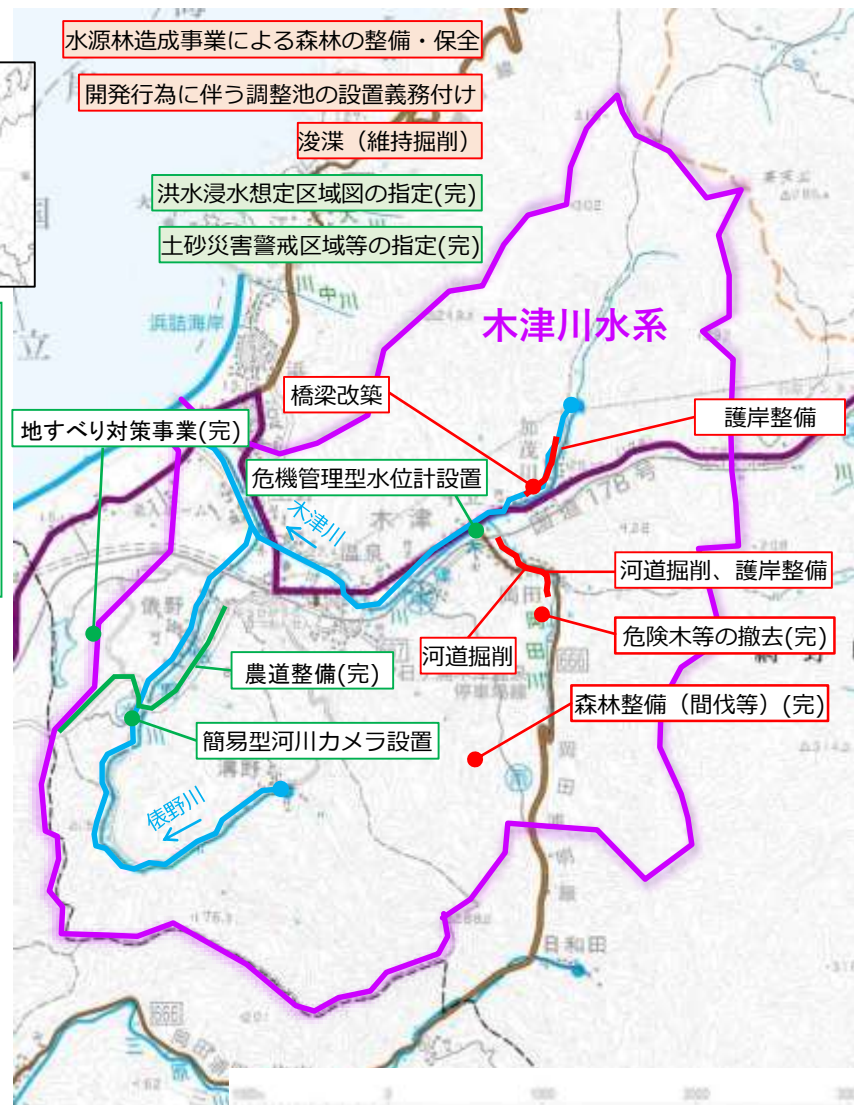


図-1 河道掘削施工イメージ





















図-2 水源林造成事業による森林整備実施イメージ



H29年台風18号 被害状況
時間最大雨量 73mm

※本図は全対策の内、代表的な対策を記載している。
※具体的な対策内容については今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

- 木津川水系では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、府、市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
 - 【短期】 河道掘削等の河川維持管理を行うとともに、「海岸保全施設の整備・維持」を行う
 - 【中長期】 河川整備により、さらなる流下能力の向上を図るとともに、「避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実」や「住民の水害リスクに対する理解促進の取組」等のソフト対策を実施する

区分	主な対策内容	実施主体	工程 ( 対策実施中  対策完成)	
			短期 (令和4年度～令和8年度)	中長期 (令和9年度～令和33年度)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河川等整備	京都府		
	河川等の維持管理	京丹後市、京都府		
	流域の雨水貯留機能の向上・保全	京都府		
被害対象を減少させるための対策	-	-		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水災害リスク情報空白地帯の解消	京丹後市、京都府		
	住民の水害リスクに対する理解促進の取組	京丹後市		
	土砂災害警戒区域等の指定	京都府		
	避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実	京丹後市、京都府		
	被災自治体に対する支援の充実	京丹後市		

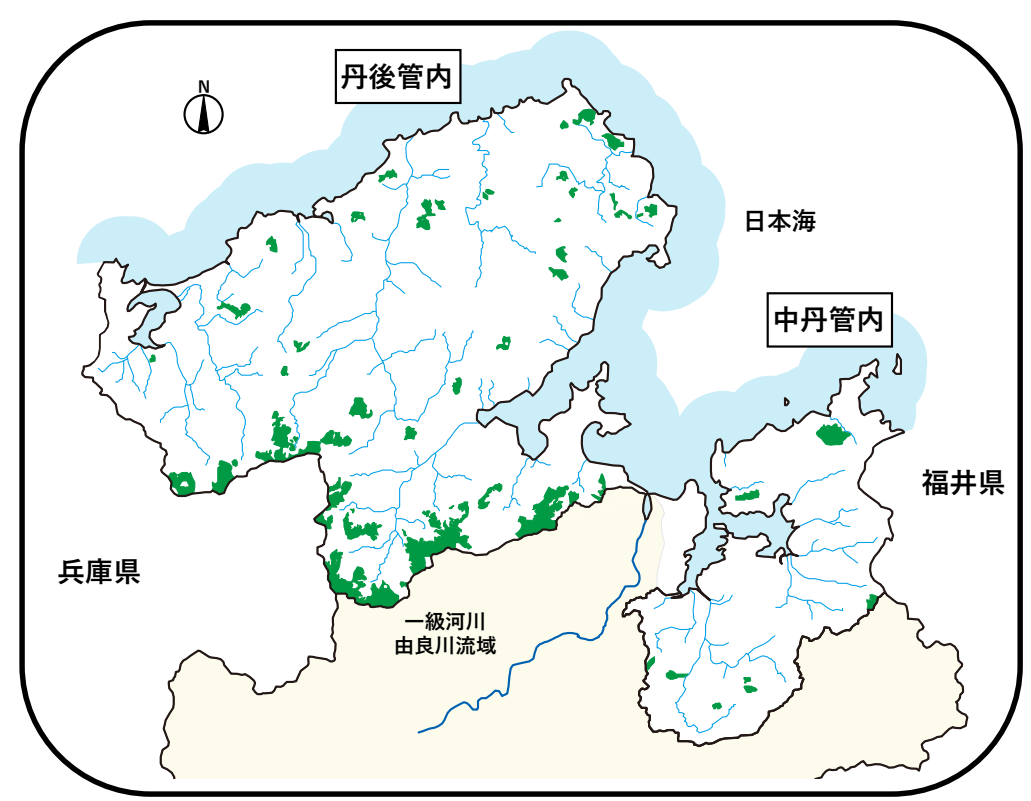
気候変動を踏まえた更なる対策を推進

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策事例

<水源林造成事業による森林の整備・保全>

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター 近畿北陸整備局

- 水源林造成事業は、奥地水源地域の民有保安林のうち、所有者の自助努力等によっては適正な整備が見込めない箇所において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の有する公益的機能の高度発揮を図る事業です。
- 水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進します。
- 丹後管内流域における水源林造成事業地は、約109箇所（森林面積約4,505ha）であり、流域治水に資する除間伐等の森林整備を計画的に実施していきます。



氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策事例

<治山事業>

京都府 丹後広域振興局 農林商工部

- 治山事業は森林の維持造成を通じて府民の生命・財産を保全するとともに、水源の涵養、生活環境の保全・形成等図る重要な事業です。京都府では、流木対策のための治山施設の設置、森林整備のほか人家や公共施設等に隣接した森林における風倒木等の危険木の伐採など、森林の持つ防災機能をはじめとした、多面的機能の向上を推進しています。

治山事業（国庫事業）

荒廃した溪流や山腹に対する復旧や未然防止対策
（管内28箇所を実施（当該流域で実施なし））

荒廃した溪流の復旧（実施前）



荒廃した溪流の復旧（実施後）



保安林危険木重点事業（京都府単独事業）

山地災害危険地区で危険度の高い箇所の流木対策
（管内20箇所を実施（当該流域で実施なし））

流木の撤去及び捕捉施設の設置（実施前）



流木の撤去及び捕捉施設の設置（実施後）



未来へつなぐ安心・安全の森づくり事業 （京都府森林環境税事業）

地域住民による危険木の撤去等を支援
（管内のべ6自治区で実施（当該流域で1自治区実施））

危険木の撤去（実施前）



危険木の撤去（実施後）



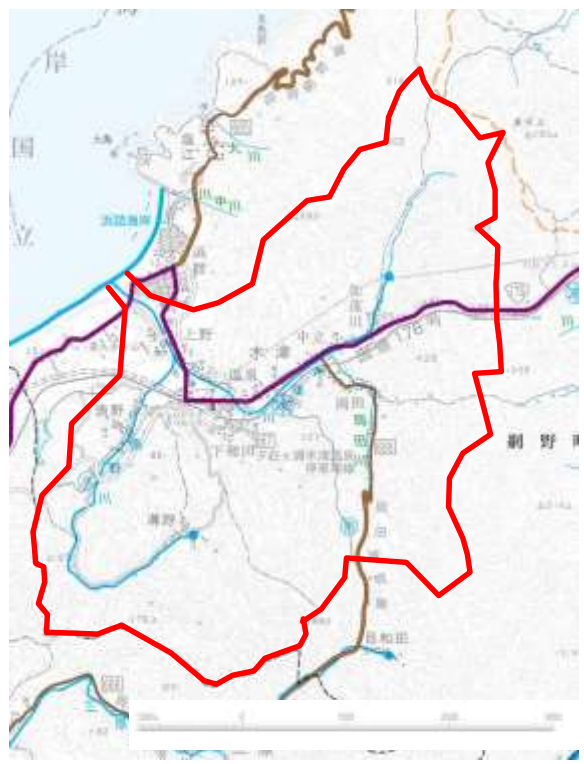
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策事例

<森林整備事業による間伐等の実施>

京都府 丹後広域振興局 農林商工部

- 近年、豪雨災害により府内各地で山地災害が多発する中、森林の防災・減災機能の発揮に対する期待がより一層高まっています。
 - 森林整備事業は、整備の遅れた森林等において、間伐を始めとする森林整備を行うことにより、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全等の森林の有する多面的機能の維持・増進に資する事業です。
- ※国事業名：森林環境保全整備事業(農林水産省林野庁所管)

【取組内容】 間伐等の森林整備
【場 所】 京丹後市網野町溝野



整備前後の森林の状況 (イメージ)

【整備前】



間伐等の整備が遅れた森林では、下層植生が著しく乏しく、豪雨時には雨水による浸食により、土砂等が流出しやすくなります。

【整備後】



整備が適正に実施された森林では、下層植生が繁茂し、土砂等の流出が少なくなります。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

京丹後市

<ハザードマップの作成・普及>

- 災害時における避難の促進、避難行動等を市民に周知するため、土砂災害・洪水・地震等に対応した各種マップ作成し、市内全世帯への配布を行った。また、転入者等に対して適宜配布を行っている。

京丹後市 洪水・土砂災害ハザードマップ

この洪水・土砂災害ハザードマップでは、下にある避難行動判断フローの流れに沿って、自宅周辺の危険性を把握し、避難が必要か確認してください。次に、右のページにあるマイ・タイムラインを確認して、警戒レベルに応じてどのような行動が必要かを確認し、記入してください。

また、下のページにあるような持ち出し袋や備蓄品、特殊の収容方法などを確認し、いざというときにきちんとして行動できるように備えてください。

マイ・タイムライン

自宅の災害リスクは？

浸水深 **m未満**
(0.5m〜2.0m未満の浸水深の場合、1層は安全と見なす)

土砂災害 階別 警戒区域
区域内、区域外

どこに避難する？
市の避難施設

誰に声をかける？誰と避げる？
<声をかける人> 家族・近所の人

避難のポイント

- ◆避難は早いうちに
→一階の避難は危険です！
- ◆雨が強くなる前に避難
→テレビや気象庁(け)で雨や風が強くなる情報を確認
- ◆自宅が安全な場合は自宅に留まる
→ハザードマップで危険な場所(災害リスク)を確認

避難行動判断フロー

あなたごとく避難行動は？

1. ハザードマップで自宅がどのレベルか確認し、ほらつけておきましょう。

2. 警戒レベル1に該当する場合は、避難準備(西発告)を受け、避難行動の準備を急いで進めましょう。

3. 警戒レベル2に該当する場合は、大雨・洪水・高潮に注意し、避難行動の準備を進めましょう。

4. 警戒レベル3に該当する場合は、洪水警報・大雨警報(土砂災害)を受け、避難行動の準備を進めましょう。

5. 警戒レベル4に該当する場合は、土砂災害警戒情報などを受け、避難行動の準備を進めましょう。

6. 警戒レベル5に該当する場合は、緊急安全確保を受け、避難行動の準備を進めましょう。

警戒レベルと状況	警戒レベル1	警戒レベル2	警戒レベル3	警戒レベル4	警戒レベル5
警戒レベル	今後災害が顕化のおそれ	災害が顕化	災害のおそれあり	災害のおそれ高い	災害発生又は顕化
避難情報(西発告)			高齢者等注意	避難指示	緊急安全確保
防災気象情報	早期注意情報	大雨・洪水・高潮注意報	洪水警報・大雨警報(土砂災害)	土砂災害警戒情報 など	大雨特別警報(洪水等) 大雨特別警報(土砂災害)
みなさんが取るべき行動	災害への心構えを高める	自らの避難行動を確認する	危険な場所から高齢者等は避難	危険な場所から全員避難	命の危険直ちに安全確保!

家屋倒壊等危険想定区域

洪水時に、家屋の倒壊・流失をきたすような激しい流れが発生するおそれがある、堤防の壊れやすい地域を「家屋倒壊等危険想定区域」として指定しています。この区域では、自宅等が倒壊するおそれがあることから、浸水区域外への避難の必要性が高くなります。

あなたの行動を記入してください

避難する行動

避難する

災害への心構えを高める
テレビ、ラジオの災害予報に注意する
マイ・タイムラインを確認
家族の安全確保を確認
備蓄品のチェック
家族の持ち物の準備

Map showing hazard zones (red/orange) and evacuation routes (blue) in Kyodanago City. Key locations include Kyodanago City Office, various schools, and community centers.

マップの他、マイタイムライン、気象情報の見方、避難行動の方法、避難情報の種類、水位の程度、非常用持ち出し袋の防災備蓄品等の紹介を行っています。

- 地域または家庭におけるタイムラインを作成し、危険区域からの早期避難やいざという時の避難所や避難経路を再確認する。

水害対策

- SUIGAI TAISAKU -

「避難行動タイムライン」とは



いつどこへどのように
避難するかを定めておく計画です。



- 「いつ」を決めることで、迷う時間を減らし、見通しを持って速やかな行動を行うことができます。
- 「どこへ」を決めることで、指定緊急避難場所への移動が難しい場合でも、近隣の比較的 안전한場所に避難することができます。
- 「どのように」避難するかを決めることで、避難時の協力関係を確認することができます。

--- 作成例 ---

		災害・避難カード	
		水 害	土砂災害
いつ		避難の場合 (スイッチ)	〇〇川の洪水警報の危険度分布がうすむらさき色
どこへ	避難先	指定緊急避難場所	●●小学校
	次ぎの避難場所	◆◆さんのお家	▲▲中学校
どのように		メモ欄	<ul style="list-style-type: none"> ・避難の際は、防災グッズを持ち出すこと ・〇〇さんに避難の声をかけよう ・災害伝言ダイヤル(171)



○避難情報が出された場合は、避難行動をとってください
 高齢者等避難⇒避難に時間を要する人(高齢者/障害者/乳幼児など)とその支援者は避難しましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。
 避難指示⇒速やかに危険な場所から避難しましょう。

防災

水害時の「避難行動タイムライン」のすすめ

災害はいつ来てもおかしくない！備えあれば憂いなし

- 市広報誌掲載
- 区長会等での呼びかけ
- ワークショップの開催

地域の自主防災組織などもタイムラインの作成に取り組んでいます。
あなたの地域でも作成を!



タイムライン作成に向けたワークショップの様子 (久美浜一区)

- 年1回地域や自主防災組織、防災関係機関等と連携を行い、自然災害を想定した各種訓練を実施、また災害時の理念「自助」「共助」を推進する取組として地域防災リーダー研修で防災・減災につなげる。



- 避難情報、行動、避難所運営訓練
- 消防資機材の点検、使用訓練
- 危険箇所パトロール
- 地域防災力の向上のための講演、研修など



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

<避難体制等の強化>

京丹後市

● 風水害における土砂災害や洪水での避難を呼びかける避難情報の理解と積極的な活用をすすめるための周知・広報を行っている。

災害そなえるポイント

災害（台風・大雨など）に備えた避難行動を。point

近年、これまでにない規模の豪雨などが各地に甚大な被害を被害をもたらしています。「自分の命は自分で守る」、「自分たちの地域は自分で守る」という自衛・共助の防災意識を持ち、災害から身を守るためのポイントを押さえて、日頃から災害に備えよう。

【主な広報媒体】

- 市広報誌
- 市ホームページ
- 市ケーブルTV

Point 1. 逃げ遅れゼロへ 早めの避難 を考えておく。

警戒レベル3や4が出たら、避難行動を早めよう！

警戒レベル3や4が出たら、避難行動を早めよう！

避難レベル3や4が出たら、避難行動を早めよう！

避難レベル3や4が出たら、避難行動を早めよう！

Point 2. 逃げ遅れゼロへ 警戒レベルを確認する。

早期注意警報	注意報	高齢者避難	避難指示	避難安全確保
<p>災害・避難グッズの準備</p>	<p>避難行動避難経路の確認</p>	<p>高齢者・障害者・乳幼児とその介護者の方は避難（特別要する方）</p>	<p>速やかに避難！</p>	<p>避難行動の安全確保</p>
警戒レベル1	警戒レベル2	警戒レベル3	警戒レベル4	警戒レベル5

警戒レベルとは、自分の判断で避難行動ができるよう気象庁が出す防災気象情報（警戒レベル1～2）と市が出す避難情報（警戒レベル3～5）のことで、警戒レベル3または4が発表された地域の方は、速やかに避難してください。

Point 4. 備えあれば憂いなし 防災マップ 確認のポイント。

- 自宅や勤務先や通学路などにある身近な危険場所を確認。
- どのような災害が起こるか考えて避難場所・経路を確認。

避難経路を確認したら、実際に歩いてみて、危険な場所がないか確認してみましょう。また、家族や地域でも話し合ってみましょう。

Check! 新型コロナウイルス感染症に気を付けた避難のポイント!

災害時は、危険な場所にいる人は避難することが原則です。避難する場合は、感染症対策を踏まえた避難行動を。

避難場所へ気をつけること

- 避難場所に入る前に、体温チェックを受けよう！
- 避難場所が狭い場合は、避難場所の隅に身をよせよう！
- 避難場所のルールに基づいて行動しよう！

避難時に気をつけること

- マスクを着用して避難場所へ向かいましょう！
- 避難場所の入り口付近に立ち、他の人と密着しないようにしよう！

Point 3. 備えあれば憂いなし 避難行動判定フロー モチエックしよう。

洪水や土砂災害に備えて、市が配布している「防災マップ」や「避難行動判定フロー」をチェックしてみましょう。また、広域さようたんこも月号掲載の自分や家族がいざという時に行動できる計画「避難行動タイムライン」を作っておきましょう。

避難行動判定フロー

まず、洪水や土砂災害の京丹後市防災MAPで自分の家がどこにあるか確認しましょう。

自宅が洪水想定区域や土砂災害区域のなかにありますか？

- はい → 避難行動判定フローを確認し、避難行動を早めよう！
- いいえ → 避難行動判定フローを確認し、避難行動を早めよう！

避難行動判定フローを確認したら、避難行動を早めよう！

避難行動判定フローを確認したら、避難行動を早めよう！

避難行動判定フローを確認したら、避難行動を早めよう！

避難行動判定フローを確認したら、避難行動を早めよう！

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

<ため池ハザードマップの作成>

- 京丹後市に存在する防災重点農業用ため池を対象に、万が一に備え被害想定区域等を表示した「ため池ハザードマップ」の作成を実施

■ 防災重点ため池ハザードマップ

・京丹後市では、防災重点ため池が59箇所存在します。

・万が一ため池が決壊したときに備えて、被害想定区域や避難場所等が表示された「ため池ハザードマップ」の作成を実施しています。



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

京都府 建設交通部

<排水ポンプ車>

- 河川の氾濫や内水などによる浸水被害発生時、現地において迅速かつ的確に排水作業を行い、浸水被害の軽減や地域における早期の復旧活動を支援
- 常設の排水施設がない河川等で機動的に湛水を排除

※排水ポンプ車4台(1台あたり排水能力30m³/min)で、府内一円に出動
※国、市所有の排水ポンプ車と連携

【対策内容】

- ・排水ポンプ車導入の検討
- ・出動要請の連絡体制の整備
- ・排水計画の策定、計画に基づく排水訓練の実施



R3年6月 綾部市と合同訓練を実施



H30年9月 土木事務所に排水ポンプ車を導入



近畿地方整備局の排水ポンプ車稼働状況
(H30年7月豪雨・福知山市荒河排水機場)



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

<水位計・河川監視カメラ等の設置・情報提供>

京都府 建設交通部

- 府管理河川において、洪水時の水位観測に特化した危機管理型水位計を126箇所を設置し、また、機能を限定した低コストな簡易型河川監視カメラを73箇所を設置し、府のホームページで住民への情報提供を行っています。



とち くに

く み くに

栃谷川・久美谷川水系 流域治水プロジェクト(案)



～小さな平地が連なるまちを守るための流域治水～

○気候変動による水災害の激甚化・頻発化に対応するため、栢谷川・久美谷川水系においても、事前防災対策を進める必要があり、以下の取り組みを実施していくことで、流域における浸水被害の軽減を図る。

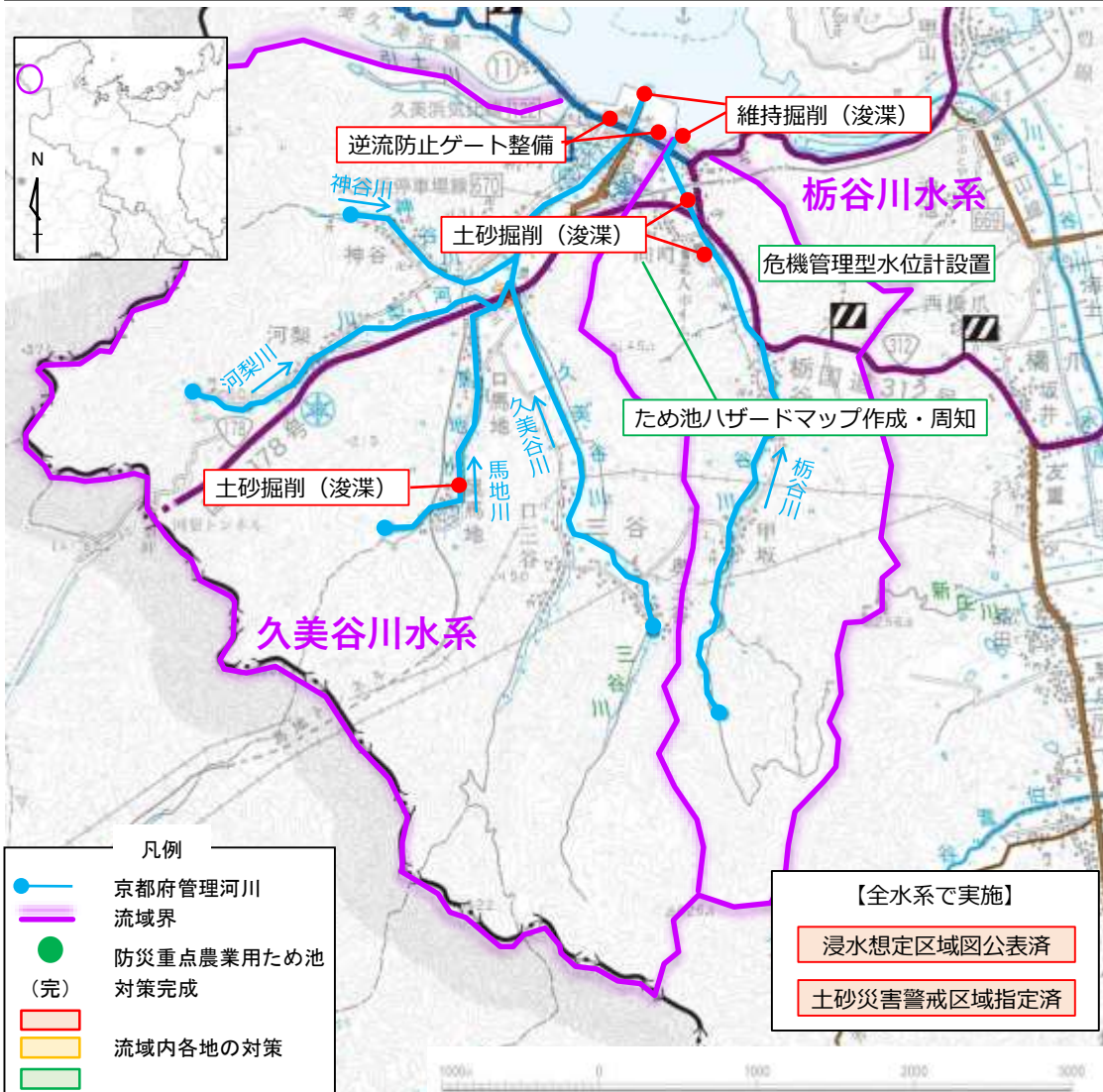


図-1 逆流防止ゲート整備 (イメージ図)

対策内容

■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
 ・高潮対策(逆流防止ゲート整備)

■ 被害対象を減少させるための対策
 ※対策が実施され次第、掲載を予定

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
 ・水害リスク情報空白地帯の解消
 ・住民の水害リスクに対する理解促進の取組
 ・土砂災害警戒区域等の指定
 ・避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実
 ・排水ポンプ車出動要請の連絡体制の整備
 ・被災自治体に対する支援の充実

※災害からの安全な京都づくり条例に基づき、府、市等が一体となって防災対策を推進



図-2 ため池、洪水ハザードマップの作成・周知 (提供：京丹後市)












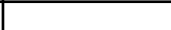



図-3 維持掘削

※本図は全対策の内、代表的な対策を記載している。
 ※具体的な対策内容については今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

●栃谷川・久美谷水系では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、府、市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短期】 河道掘削等の河川維持管理を行うとともに、「海岸保全施設の整備・維持」を行う

【中長期】 河川整備により、さらなる流下能力の向上を図るとともに、「避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実」や「住民の水害リスクに対する理解促進の取組」等のソフト対策を実施する

区分	主な対策内容	実施主体	工程 ( 対策実施中  対策完成)	
			短期 (令和4年度～令和8年度)	中長期 (令和9年度～令和33年度)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	逆流防止ゲートの整備	京丹後市		
被害対象を減少させるための対策	-	-		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水害リスク情報空白地帯の解消	京丹後市、京都府		
	住民の水害リスクに対する理解促進の取組	京丹後市		
	土砂災害警戒区域等の指定	京都府		
	避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実	京丹後市、京都府		
	被災自治体に対する支援の充実	京丹後市		

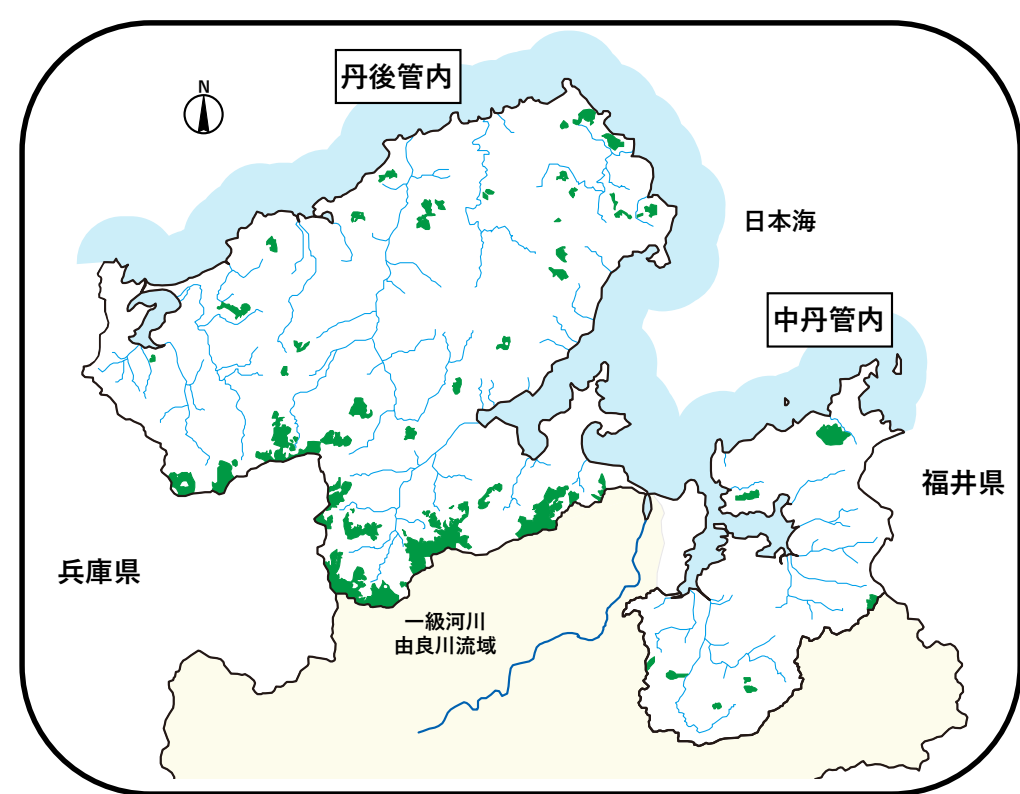
気候変動を踏まえた更なる対策を推進

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策事例

<水源林造成事業による森林の整備・保全>

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター 近畿北陸整備局

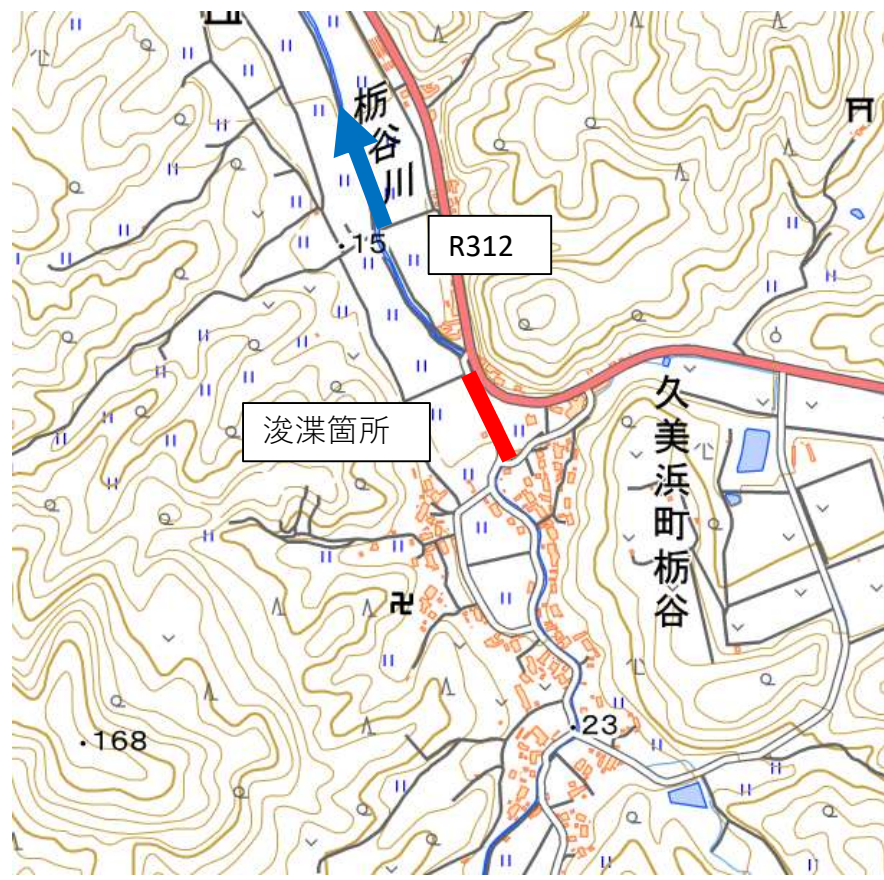
- 水源林造成事業は、奥地水源地域の民有保安林のうち、所有者の自助努力等によっては適正な整備が見込めない箇所において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の有する公益的機能の高度発揮を図る事業です。
- 水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進します。
- 丹後管内流域における水源林造成事業地は、約109箇所（森林面積約4,505ha）であり、流域治水に資する除間伐等の森林整備を計画的に実施していきます。



- 河積阻害を軽減し、流下能力を向上させるために河道の維持管理掘削を進めている。

○位置図、写真

位置図



〈維持掘削〉



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

<ため池ハザードマップの作成・周知>

京都府 丹後広域振興局 農林商工部

- 丹後管内には、決壊時に住宅や公共施設等に被害を及ぼすおそれのある防災重点農業用ため池が、令和3年度末時点で72箇所存在します。
- それぞれの防災重点農業用ため池について、万が一決壊した際の浸水想定区域図や避難経路及び避難所を記載した「ため池ハザードマップ」の作成を順次実施しています。

○ため池ハザードマップ例



○ため池ハザードマップの作成手順

対象ため池の諸元調査及び現地踏査



浸水想定区域の解析



ワークショップにより避難所・避難経路及びハザードマップに記載すべき情報の確認



ハザードマップ完成

○ため池ハザードマップ作成状況

- ・令和2年度までに作成 43箇所
- ・令和3年度作成 19箇所

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

京丹後市

<ハザードマップの作成・普及>

- 災害時における避難の促進、避難行動等を市民に周知するため、土砂災害・洪水・地震等に対応した各種マップ作成し、市内全世帯への配布を行った。また、転入者等に対して適宜配布を行っている。

京丹後市 洪水・土砂災害ハザードマップ

この洪水・土砂災害ハザードマップでは、下にある避難行動判断フローの流れに沿って、自宅周辺の危険性を把握し、避難が必要か確認してください。
次に、右のページにあるマイ・タイムラインを確認して、警戒レベルに応じてどのような行動が必要かを確認し、記入してください。
さらに、下のページにあるような持ち出し袋や備蓄品、特殊の収容方法などを確認し、いざというときにきちんとして行動できるように備えてください。

避難行動判断フロー

あなたができる避難行動は？

1. ハザードマップで自宅がどのレベルに属しているかを確認し、色をつけておきましょう。

2. 警戒レベル1に属している場合は、避難準備が完了している状態です。

3. 警戒レベル2に属している場合は、避難準備が完了している状態です。

4. 警戒レベル3に属している場合は、避難準備が完了している状態です。

5. 警戒レベル4に属している場合は、避難準備が完了している状態です。

6. 警戒レベル5に属している場合は、避難準備が完了している状態です。

マイ・タイムライン

自宅の災害リスクは？

浸水深 m未満
(0.5m〜2.0m未満の浸水深の場合、1層は想定最大)

土砂災害 河川 警戒区域
区域内・区域外

どこに避難する？
市の避難施設

誰に声をかける？誰と避げる？
<声をかける人> <避難場所の場所名>

避難のポイント

- 避難は早いうちに
→一時的な避難は危険です！
- 雨が強くなる前に避難
→テレビや気象庁(け)で雨や風が強くなる情報を確認
- 自宅が安全な場合は自宅に留まる
→ハザードマップで危険な場所(災害リスク)を確認

警戒レベルと状況	警戒レベル1 今後災害が顕在化の恐れ	警戒レベル2 災害が顕在化	警戒レベル3 災害の恐れあり	警戒レベル4 災害の恐れ大	警戒レベル5 災害発生又は迫近
避難情報(市発令)			高齢者等避難	避難指示	緊急安全確保 ^{※1}
防災気象情報	早期注意情報 ^{※1}	大雨・洪水・高潮注意情報	洪水警報・大雨警報(土砂災害)	土砂災害警戒情報 など	大雨特別警報(洪水等) 大雨特別警報(土砂災害)
みなさんが取るべき行動	災害への心構えを高める	自らの避難行動を確認する	危険な場所から高齢者等は避難 ^{※2}	危険な場所から全員避難	命の危険直ちに安全確保!
あなたの行動を記入してください	<p>避難する行動</p> <p>避難する</p> <p>避難する</p>				

マップの他、マイタイムライン、気象情報の見方、避難行動の方法、避難情報の種類、水位の程度、非常用持ち出し袋の防災備蓄品等の紹介を行っています。

- 地域または家庭におけるタイムラインを作成し、危険区域からの早期避難やいざという時の避難所や避難経路を再確認する。

水害対策

- SUIGAI TAISAKU -

「避難行動タイムライン」とは



いつどこへどのように
避難するかを定めておく計画です。



- 「いつ」を決めることで、迷う時間を減らし、見通しを持って速やかな行動を行うことができます。
- 「どこへ」を決めることで、指定緊急避難場所への移動が難しい場合でも、近隣の比較的 안전한場所に避難することができます。
- 「どのように」避難するかを決めることで、避難時の協力関係を確認することができます。

--- 作成例 ---

		災害・避難カード	
		水 害	土砂災害
いつ		避難の場合 (スイッチ)	〇〇川の洪水警報の危険度分布がうすむらさき色
どこへ	避難先	指定緊急避難場所	●●小学校
	次ぎの避難場所	◆◆さんのお家	▲▲中学校
どのように		メモ欄	<ul style="list-style-type: none"> ・避難の際は、防災グッズを持ち出すこと ・〇〇さんに避難の声をけを行うこと ・災害伝言ダイヤル(171)



防災

水害時の「避難行動タイムライン」のすすめ

災害はいつ来てもおかしくない！備えあれば憂いなし

- 市広報誌掲載
- 区長会等での呼びかけ
- ワークショップの開催

地域の自主防災組織などもタイムラインの作成に取り組んでいます。
あなたの地域でも作成を！



タイムライン作成に向けたワークショップの様子 (久美浜一区)

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

<地域と連携した訓練・研修>

京丹後市

- 年1回地域や自主防災組織、防災関係機関等と連携を行い、自然災害を想定した各種訓練を実施、また災害時の理念「自助」「共助」を推進する取組として地域防災リーダー研修で防災・減災につなげる。

令和3年度 京丹後市防災訓練

訓練の目的：災害発生時に迅速かつ適切な対応を行うこと

訓練の趣旨：災害発生時の対応能力を向上させ、地域防災力の向上を図ること

1. 自主防災組織の防災訓練

2. 消防団の防災訓練

3. 消防資機材の点検・使用訓練

4. 危険箇所パトロール

5. 地域防災力の向上のための講演・研修



- 避難情報、行動、避難所運営訓練
- 消防資機材の点検、使用訓練
- 危険箇所パトロール
- 地域防災力の向上のための講演、研修など

消防資機材の点検・使用訓練

危険箇所パトロール

地域防災力の向上のための講演・研修



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

<ため池ハザードマップの作成>

- 京丹後市に存在する防災重点農業用ため池を対象に、万が一に備え被害想定区域等を表示した「ため池ハザードマップ」の作成を実施

■ 防災重点ため池ハザードマップ

・京丹後市では、防災重点ため池が59箇所存在します。

・万が一ため池が決壊したときに備えて、被害想定区域や避難場所等が表示された「ため池ハザードマップ」の作成を実施しています。



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

京都府 建設交通部

<排水ポンプ車>

- 河川の氾濫や内水などによる浸水被害発生時、現地において迅速かつ的確に排水作業を行い、浸水被害の軽減や地域における早期の復旧活動を支援
- 常設の排水施設がない河川等で機動的に湛水を排除

※排水ポンプ車4台(1台あたり排水能力30m³/min) で、府内一円に出動
※国、市所有の排水ポンプ車と連携

【対策内容】

- ・排水ポンプ車導入の検討
- ・出動要請の連絡体制の整備
- ・排水計画の策定、計画に基づく排水訓練の実施



R3年6月 綾部市と合同訓練を実施



H30年9月 土木事務所に排水ポンプ車を導入



近畿地方整備局の排水ポンプ車稼働状況
(H30年7月豪雨・福知山市荒河排水機場)

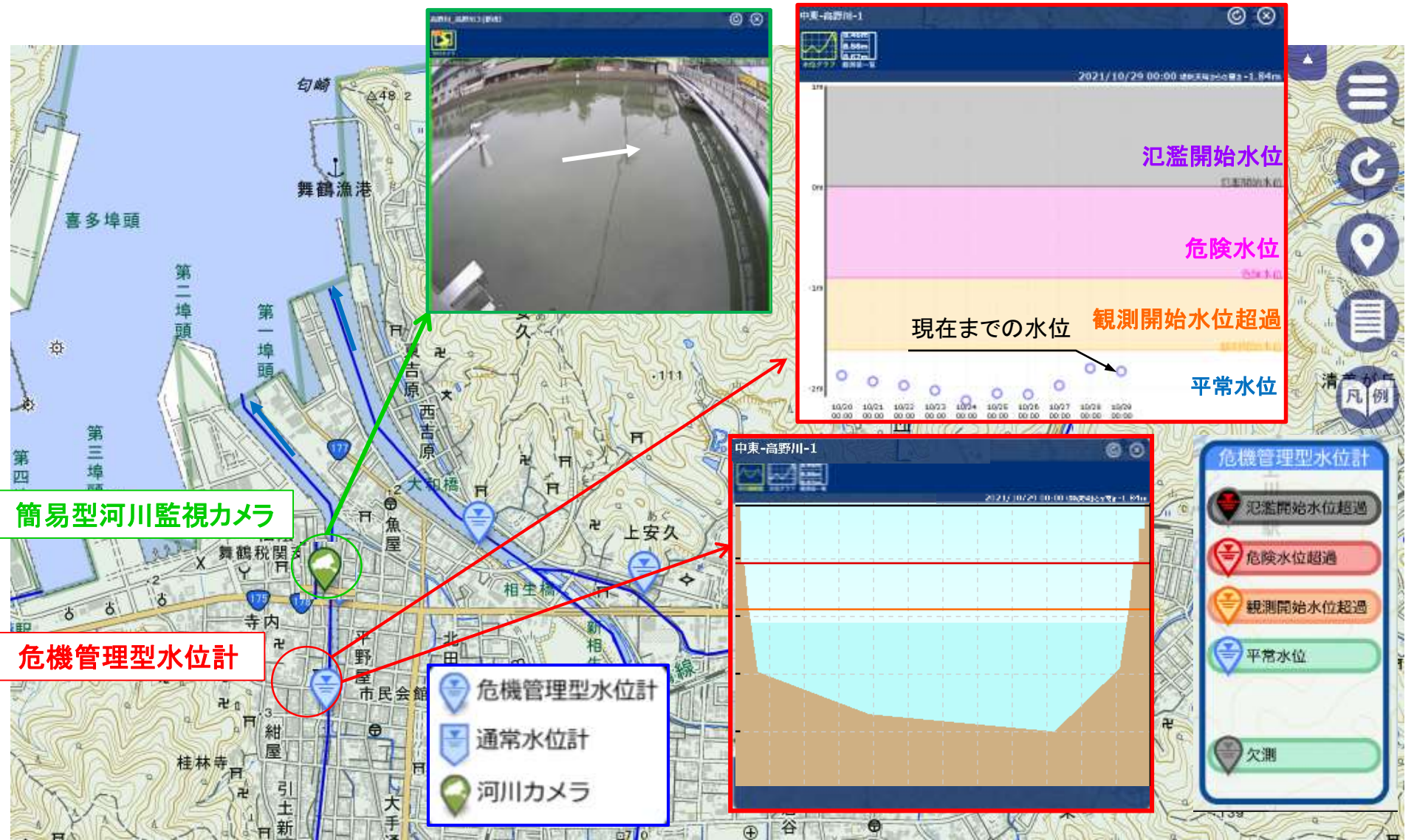


被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

<水位計・河川監視カメラ等の設置・情報提供>

京都府 建設交通部

- 府管理河川において、洪水時の水位観測に特化した危機管理型水位計を126箇所を設置し、また、機能を限定した低コストな簡易型河川監視カメラを73箇所を設置し、府のホームページで住民への情報提供を行っています。



おお て

大手川水系

流域治水プロジェクトフォローアップ(案)



～多様な水音を奏でるまちの流域治水の推進～

○気候変動の影響による災害の頻発化・激甚化に対応するため、平成16年台風23号と同規模の洪水を安全に流下させることを目標に河川整備を実施した大手川水系では、さらに以下の事前防災対策の取り組みを実施していくことで、流域における浸水被害の軽減を図る。



対策内容

■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河川等整備
- ・河川等の維持管理
- ・下水道、排水機場などの排水施設の整備・維持
- ・土砂災害を防止する施設の整備・維持
- ・流域の雨水貯留機能の向上・保全

■ 被害対象を減少させるための対策
※対策が実施され次第、掲載を予定

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・水害リスク情報空白地帯の解消
- ・住民の水害リスクに対する理解促進の取組
- ・土砂災害警戒区域等の指定
- ・土地等の購入に当たっての水害リスク情報の提供
- ・避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実
- ・確実な避難行動の実施
- ・排水ポンプ車出動要請の連絡体制の整備、排水計画に基づく排水訓練の実施
- ・水防工法等の訓練や土のう等の備蓄資材確保など、水防活動の支援
- ・地図混乱地域の解消

※災害からの安全な京都づくり条例に基づき、府、市等が一体となって防災対策を推進



平成16(2004)年台風23号による被害
『浸水家屋 2485戸、浸水面積 約170ha』

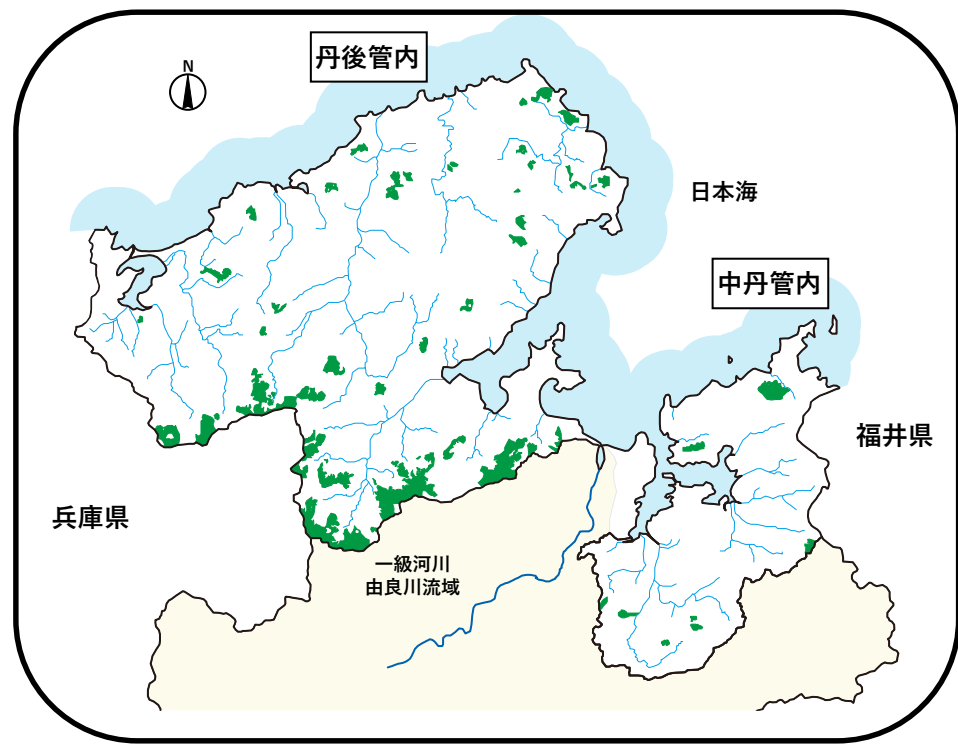
※本図は全対策の内、代表的な対策を記載している。
※具体的な対策内容については今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策事例

<水源林造成事業による森林の整備・保全>

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター近畿北陸整備局

- 水源林造成事業は、奥地水源地域の民有保安林のうち、所有者の自助努力等によっては適正な整備が見込めない箇所において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の有する公益的機能の高度発揮を図る事業です。
- 水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進します。
- 丹後管内流域における水源林造成事業地は、約109箇所（森林面積約4,505ha）であり、流域治水に資する除間伐等の森林整備を計画的に実施していきます。



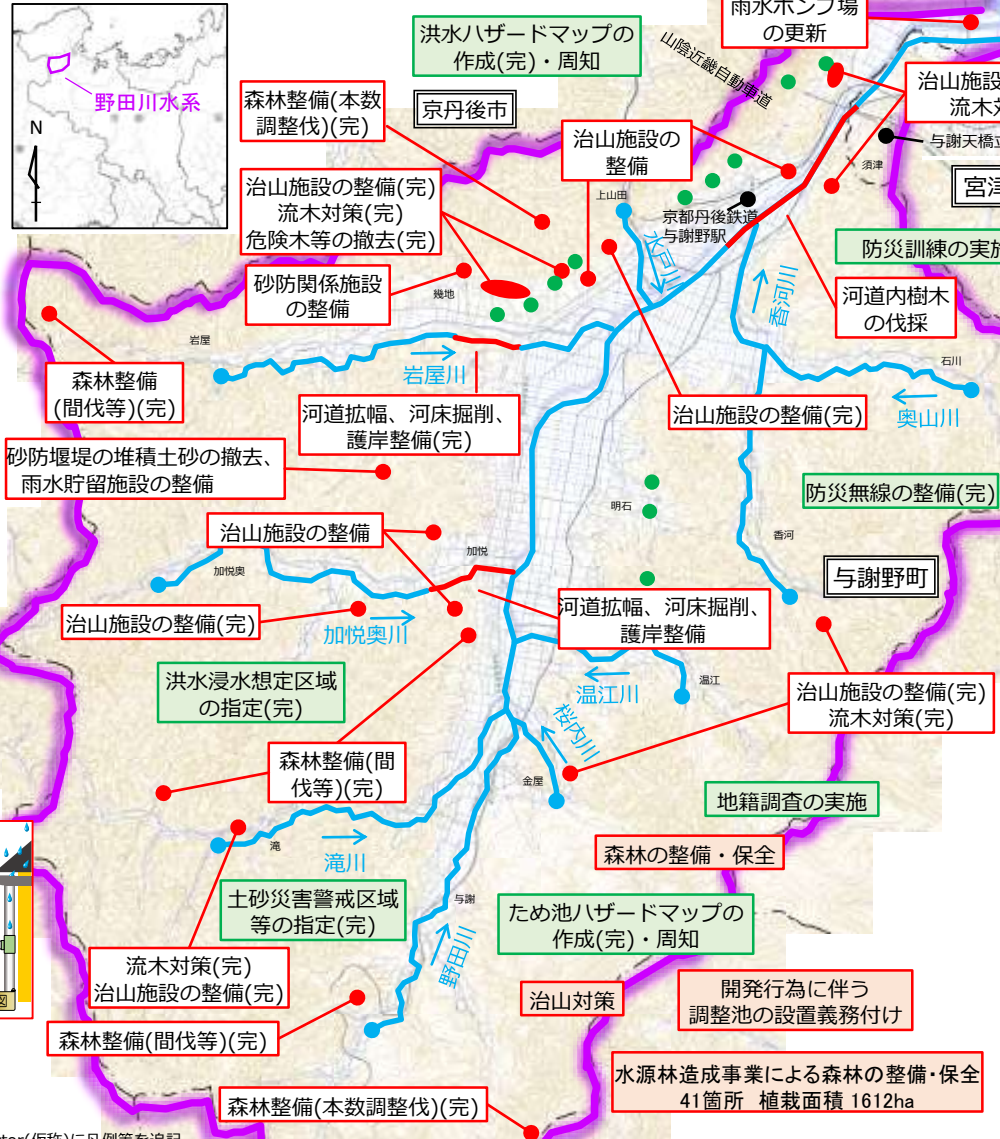
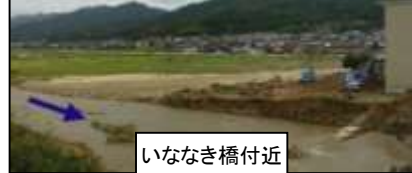
の だ
野田川水系

流域治水プロジェクトフォローアップ(案)



～歴史、景色紡ぐまちの流域治水の推進～

○気候変動の影響による災害の頻発化・激甚化に対応するため、平成16年台風23号と同規模の洪水に対して人家浸水被害の解消を図ることを目標に河川整備を実施している野田川水系では、以下の事前防災対策の取り組みを実施していくことで、流域における浸水被害の軽減を図る。



凡例

- 京都府管理河川
- 流域界
- 防災重点農業用ため池(完)
- 流域内各地の対策

対策内容

- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- ・河川等整備
 - ・河川等の維持管理
 - ・下水道、排水機場などの排水施設の整備・維持
 - ・土砂災害を防止する施設の整備・維持
 - ・流水の貯留機能の拡大
 - ・流域の雨水貯留機能の向上・保全

- 被害対象を減少させるための対策
- ※対策が実施され次第、掲載を予定

- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
- ・水害リスク情報空白地帯の解消
 - ・住民の水害リスクに対する理解促進の取組
 - ・土砂災害警戒区域等の指定
 - ・土地等の購入に当たっての水害リスク情報の提供
 - ・避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実
 - ・確実な避難行動の実施
 - ・排水ポンプ車出動要請の連絡体制の整備、排水計画に基づく排水訓練の実施
 - ・水防工法等の訓練や土のう等の備蓄資材確保など、水防活動の支援
 - ・地図混乱地域の解消

※災害からの安全な京都づくり条例に基づき、府、市町等が一体となって防災対策を推進

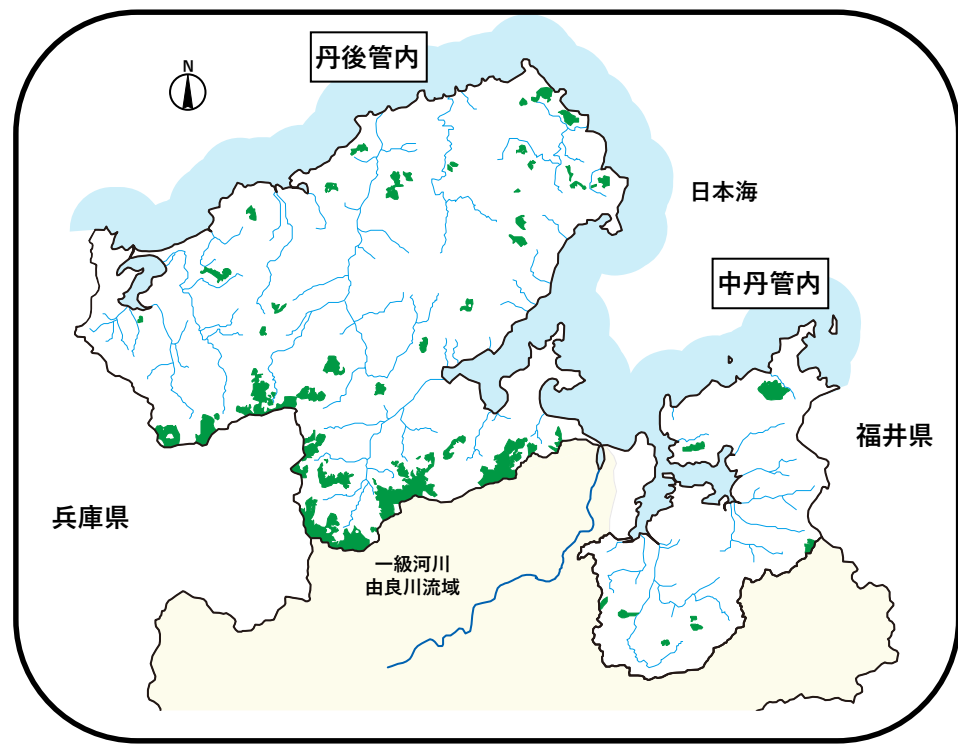
国土地理院Vector(仮称)に凡例等を追記
0 1 2(km)

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策事例

<水源林造成事業による森林の整備・保全>

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター近畿北陸整備局

- 水源林造成事業は、奥地水源地域の民有保安林のうち、所有者の自助努力等によっては適正な整備が見込めない箇所において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の有する公益的機能の高度発揮を図る事業です。
- 水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進します。
- 丹後管内流域における水源林造成事業地は、約109箇所（森林面積約4,505ha）であり、流域治水に資する除間伐等の森林整備を計画的に実施していきます。



たけ の
竹野川水系

流域治水プロジェクトフォローアップ(案)



～半島の背骨を守る流域治水の推進～

○気候変動の影響による災害の頻発化・激甚化に対応するため、平成16年台風23号と同規模の洪水に対して人家浸水被害の解消を図ることを目標に河川整備を実施している竹野川水系では、以下の事前防災対策の取り組みを実施していくことで、流域における浸水被害の軽減を図る。



自主防災組織による
災害想定訓練



水源林造成事業による森林の整備・保全
27箇所 森林面積 870ha



凡例

- 京都府管理河川
- 流域界
- 防災重点農業用ため池 (完)
- 流域内各地の対策

防災行政無線戸別受信機の
全戸貸与による災害情報の周知

対策内容

■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河川等整備
- ・河川等の維持管理
- ・土砂災害を防止する施設の整備・維持
- ・流域の雨水貯留機能の向上・保全

■ 被害対象を減少させるための対策

- ・霞堤の機能保全

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・水災害リスク情報空白地帯の解消
- ・住民の水害リスクに対する理解促進の取組
- ・土砂災害警戒区域等の指定
- ・避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実
- ・確実な避難行動の実施
- ・排水ポンプ車出動要請の連絡体制の整備、排水計画に基づく排水訓練の実施

※災害からの安全な京都づくり条例に基づき、府、市等が一体となって防災対策を推進



丹後町三宅



弥栄町井辺

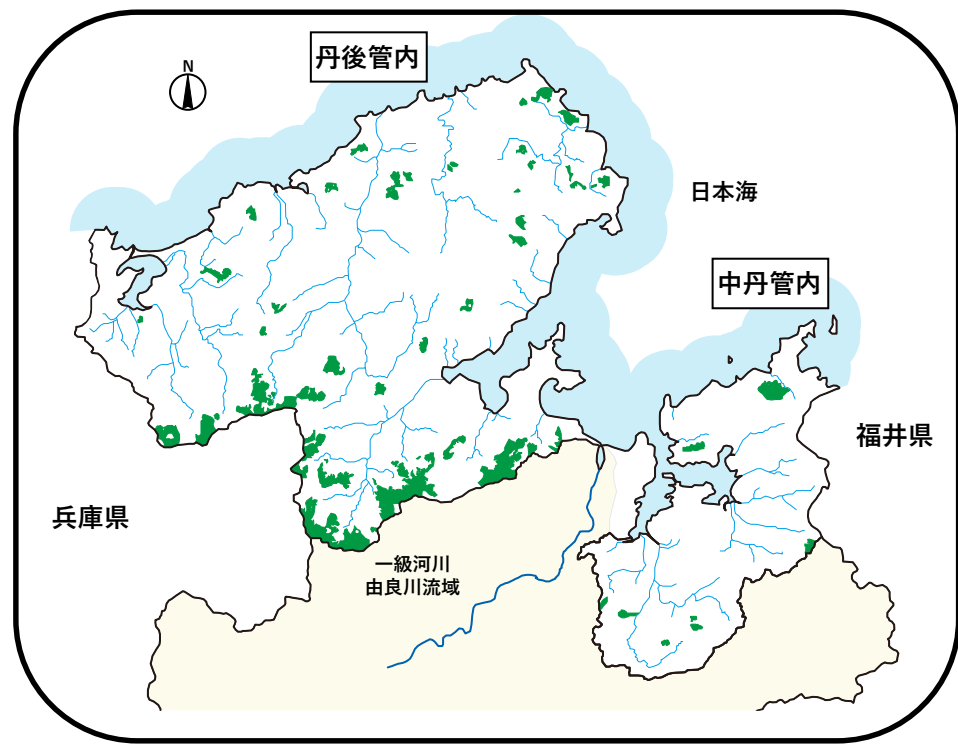
平成16年台風23号による被害
『浸水家屋 210戸、浸水面積 約332ha』

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策事例

<水源林造成事業による森林の整備・保全>

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター近畿北陸整備局

- 水源林造成事業は、奥地水源地域の民有保安林のうち、所有者の自助努力等によっては適正な整備が見込めない箇所において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の有する公益的機能の高度発揮を図る事業です。
- 水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進します。
- 丹後管内流域における水源林造成事業地は、約109箇所（森林面積約4,505ha）であり、流域治水に資する除間伐等の森林整備を計画的に実施していきます。



さ の たに

佐濃谷川水系

流域治水プロジェクトフォローアップ(案)



～緑の野、実りの里の流域治水～

○気候変動の影響による災害の頻発化・激甚化に対応するため、平成16年台風23号と同規模の洪水に対して人家浸水被害の解消を図ることを目標に河川整備を実施している佐濃谷川水系では、以下の事前防災対策の取り組みを実施していくことで、流域における浸水被害の軽減を図る。



- 凡例
- 京都府管理河川
 - 流域界
 - 防災重点農業用ため池 (完)
 - 流域内各地の対策
 - 流域内各地の対策



対策内容

- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- ・河川等整備
 - ・河川等の維持管理
 - ・土砂災害を防止する施設の整備・維持
 - ・流域の雨水貯留機能の向上・保全

- 被害対象を減少させるための対策
- ※対策が実施され次第、掲載を予定

- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
- ・水災害リスク情報空白地帯の解消
 - ・住民の水害リスクに対する理解促進の取組
 - ・土砂災害警戒区域等の指定
 - ・避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実
 - ・確実な避難行動の実施
 - ・排水ポンプ車出動要請の連絡体制の整備、排水計画に基づく排水訓練の実施

※災害からの安全な京都づくり条例に基づき、府、市等が一体となって防災対策を推進



防災行政無線戸別受信機の全戸貸与による災害情報の周知



土砂災害・洪水等に対応した防災マップの配布



久美浜町二俣地区
平成29年台風18号による被害
『浸水家屋 18戸、浸水面積 約100ha』



鹿野橋付近
平成10年台風7号による被害
『浸水家屋 61戸、浸水面積 約184ha』

国土地理院Vector(仮称)に凡例等を追記
0 1 2(km)

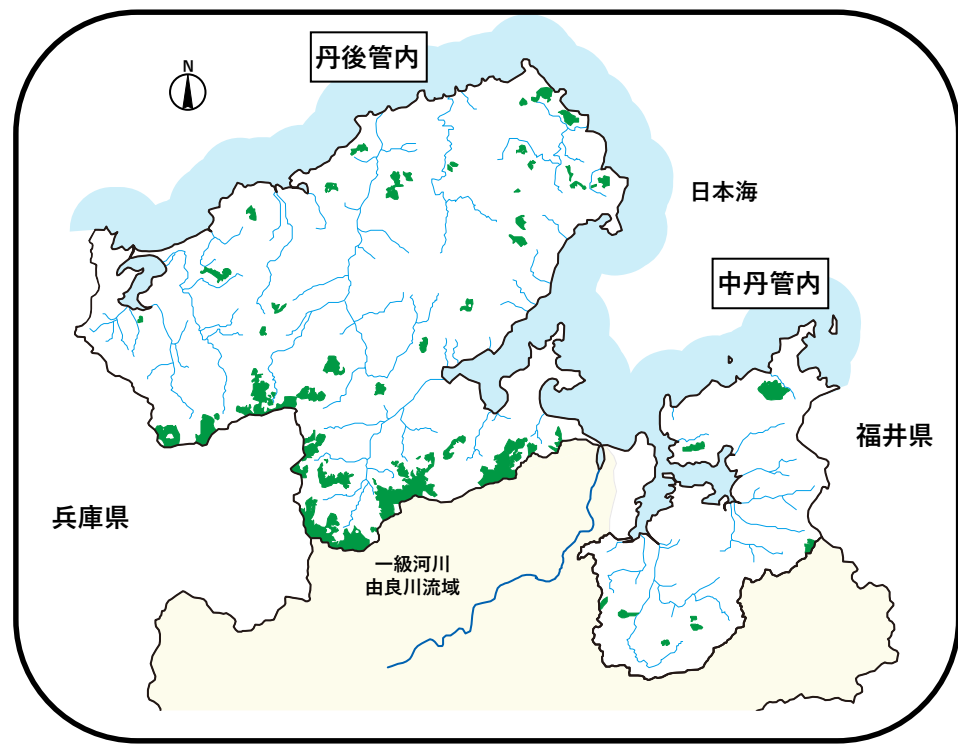
※本図は全対策の内、代表的な対策を記載している。
※具体的な対策内容については今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策事例

<水源林造成事業による森林の整備・保全>

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター近畿北陸整備局

- 水源林造成事業は、奥地水源地域の民有保安林のうち、所有者の自助努力等によっては適正な整備が見込めない箇所において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の有する公益的機能の高度発揮を図る事業です。
- 水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進します。
- 丹後管内流域における水源林造成事業地は、約109箇所（森林面積約4,505ha）であり、流域治水に資する除間伐等の森林整備を計画的に実施していきます。



かわ かみ たに

川上谷川水系

流域治水プロジェクトフォローアップ(案)



～肥沃な平地で流域治水を推進～

○気候変動の影響による災害の頻発化・激甚化に対応するため、平成16年台風23号と同規模の洪水に対して人家浸水被害の解消を図ることを目標に河川整備を実施している川上谷川水系では、以下の事前防災対策の取り組みを実施していくことで、流域における浸水被害の軽減を図る。

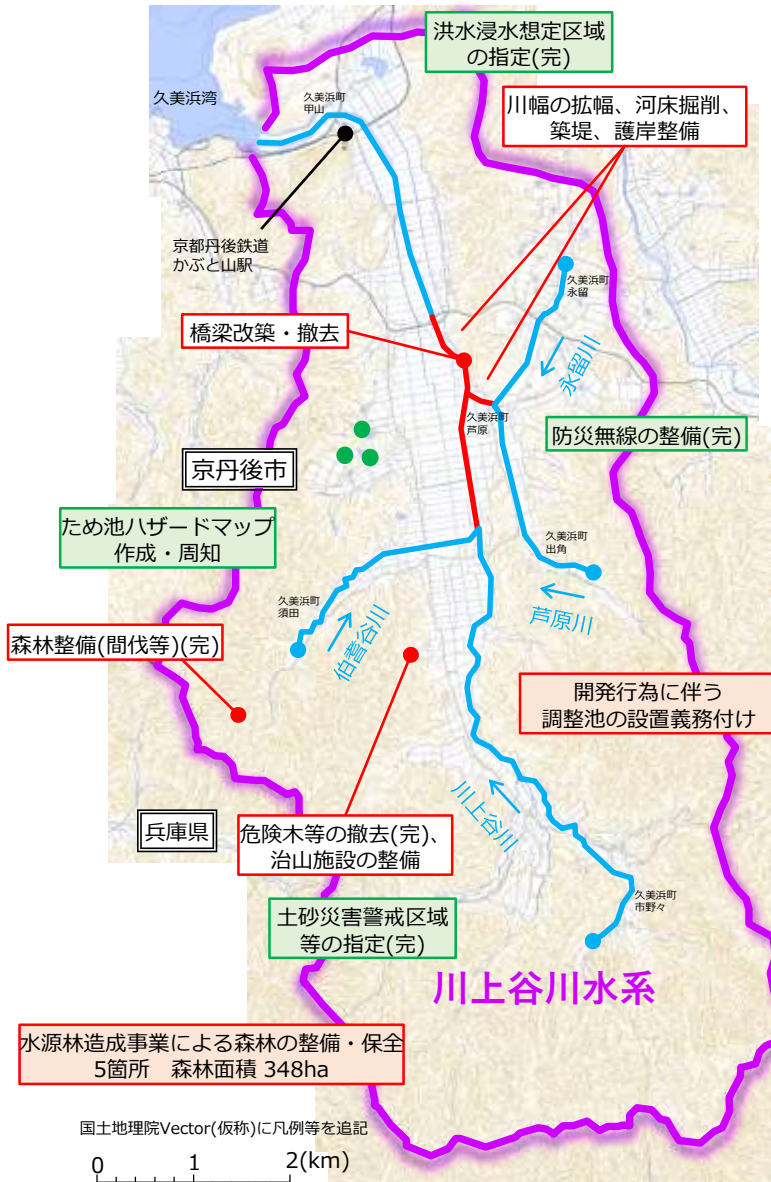
- 凡例
- 京都府管理河川
 - 流域界
 - 防災重点農業用ため池対策完成 (完)
 - 流域内各地の対策



防災行政無線戸別受信機の全戸貸与による災害情報の周知



避難行動のポイントを広報誌で周知



- 対策内容
- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
 - ・河川等整備
 - ・河川等の維持管理
 - ・土砂災害を防止する施設の整備・維持
 - ・流域の雨水貯留機能の向上・保全
 - 被害対象を減少させるための対策
 - ※対策が実施され次第、掲載を予定
 - 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
 - ・水災害リスク情報空白地帯の解消
 - ・住民の水害リスクに対する理解促進の取組
 - ・土砂災害警戒区域等の指定
 - ・避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実
 - ・確実な避難行動の実施
 - ・排水ポンプ車出動要請の連絡体制の整備、排水計画に基づく排水訓練の実施
- ※災害からの安全な京都づくり条例に基づき、府、市等が一体となって防災対策を推進



橋爪橋付近
平成10年台風7号による被害
『浸水家屋 61戸、浸水面積 23ha』



永留川と川上谷川の合流点付近
平成16年台風23号による被害
『浸水家屋 152戸、浸水面積 246ha』

国土院Vector(仮称)に凡例等を追記
0 1 2(km)

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策事例

<水源林造成事業による森林の整備・保全>

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター近畿北陸整備局

- 水源林造成事業は、奥地水源地域の民有保安林のうち、所有者の自助努力等によっては適正な整備が見込めない箇所において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の有する公益的機能の高度発揮を図る事業です。
- 水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進します。
- 丹後管内流域における水源林造成事業地は、約109箇所（森林面積約4,505ha）であり、流域治水に資する除間伐等の森林整備を計画的に実施していきます。

